

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1158

「NEWSな済生人」
心原性脳梗塞を予防する
ウルフ-オオツカ法



12

December 2025

社会福祉法人 済生会

恩賜
財団

<https://www.saiseikai.or.jp>

済生会の 不易流行論

207

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



フェイク情報の識別

50年前、福岡県で自然保護課長のときも、熊被害が発生したが、今のよう大きな被害はなかった。むしろ保護活動に重きが置かれた。当時西日本から熊が減少し始め、九州では絶滅していた。福岡県も減少傾向にあった。

環境庁（当時）による自然環境保全基礎調査の一環として熊

の生息数の調査を担当した。どのようにして調査するのか、私には見当がつかなかったが、20年以上も鳥獣保護行政に携わったベテラン職員は、県内の猟師からヒアリングして回答した。確か数百頭のレベルだった。「こんな少ない頭数か」と感じた記憶がある。

この熊が今では増加し、多く

の人命が失われる事態になった。しかし、熊に餌付けをする、高齢の女性が熊を追いかけるなど、AIで作成したフェイク動画がインターネットで流される。人によっては本当だと思い込み、熊は怖くないと勘違いしてしまふ。人命に係る悪質な行為だ。部落問題について40年以上取り組んできたが、インターネットには誤った情報や人権侵害のおそれがある記載が氾濫しているのも心配だ。AIは、このような情報を材料にして部落問題について記述するので、さらに誤情報や人権侵害を拡散しているのが現状である。

東京都国立市が今年1月に公表した人権意識調査によると、他の自治体に比べて人権意識の高い国立市でさえ部落問題について知らない人は、40・4%と多くなっている。特に15〜17歳の若い人は、60・8%と多い。部落問題に関する知識が欠如している人は、インターネットで誤った情報で学ぶ。すると無関心だった人は、加害者の立場に転じているのが今の姿である。

☆ ☆

体が不調な時にインターネットで病気の検索をすることがある。この場合出所が明確でない記事は、パスをする。ケースによっては命にかかわるからである。科学的根拠のない治療方法や健康食品の推奨が、たくさん混じっている。この点で済生会のホームページに掲載している『症状別病気解説』が、たくさん閲覧を集めているのは納得できる。

インターネットから得られる情報は、常にフェイクかもしれないと疑って接しなければならぬ。責任の所在が明確な新聞・雑誌、テレビ・ラジオというオールメディアの方が信頼できる。人から学ぶ、書籍を読むというところで正しい知識を得ながら、インターネットに接することが必要な時代である。

最近の社会を観察すると、新聞や本を読まないでインターネットだけで知識を求めようとする人が多くなっている。知らないうちにフェイク情報によって操作される社会になっているのではないかと心配が尽きない。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適応していかなければならない。

SMBC

SMBCグループ

昨日、 今日、 明日、三井住友銀行と。

昨日とは違う今日をはじめるために。
今日を未来へとつなげていくために。
私たちは、お一人おひとりの毎日を、
一つひとつの変化を、丁寧に見つめていきたい。
いつでもどこでも、あなたにいちばん近い銀行でありたい。
これからもずっと、あなたの人生のパートナーであるために。

SMBC 三井住友銀行

三井住友銀行

topics★コンシェル



「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!
質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

10月31日のハロウィーンに合わせて、
今年も全国の済生会施設では楽しいイ
ベントが開催されました。子どもから大
人まで思い思いの仮装で参加し、たくさ
んのお菓子やグッズを手に笑顔溢れるひ
とときを過ごしました。施設全体がにぎ
やかな雰囲気にもまれ、すてきな思い出
がまた一つ増えました。詳しくはP68を
ご覧ください。

The latter half of this magazine is
covered with a rich forest of
treasurable articles.
What will you discover there?



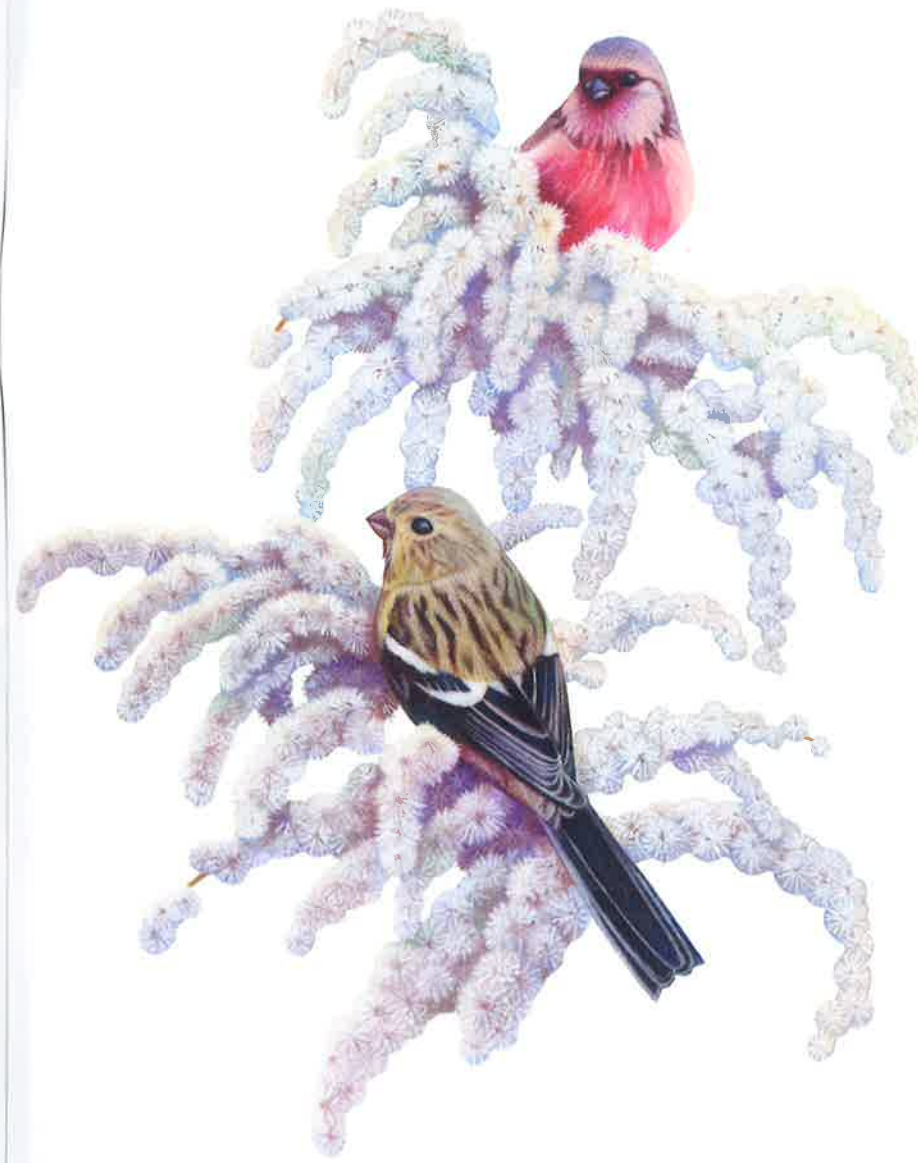
表紙のことば

冬の白い帽子と赤いブローチ

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

秋、背の高い頭の上に黄色い花を咲かせていたセイ
タカアワダチソウは、冬になり暖かそうなフワフワ
とした白い帽子をかぶりしました。その帽子に赤いブ
ローチのように止まっているのはベニマシコです。

ベニマシコはこの種子が大好き。セイダカアワダチ
ソウは年末になると現れる豪華なご馳走です。年末
年始、祝宴の間を赤い顔で飛び回るベニマシコ。親
しみと愛しさを感じます。



済生

SAISEI

CONTENTS
DECEMBER, 2025

NEWSな済生人

心原性脳梗塞を予防するウルフ-オオツカ法
山口県・北九州地区で先駆的に導入、
実績を誇る

〈山口〉下関総合病院
副院長兼心臓血管外科科長

06

伊東博史さん

済生会交差点

《子どもの力を引き出す》熊本地震の経験か
ら生まれた「防災おさんぽ」。“いつも”の遊
びで“もしも”に備える／《寿地区無料健康
診断》変わりゆく日雇い労働者の街。「誰一
人取り残さない」支援を目指して

10

巻頭コラム 済生会の不易流行論

フェイク情報の識別 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

15

済生会フェア 〈岩手〉北上済生会病院

18

報告 生活困窮者問題シンポジウム

20

てづくりおもちゃ in 〈栃木〉宇都宮 事務局(部)長会
院内保育研究会

81

この人 梅宮アンナ

22

口福につぼん 吉井省一

24

だれでもかんたん てづくりおもちゃ

いまいみさ

26

TOPICS

28

大雑報

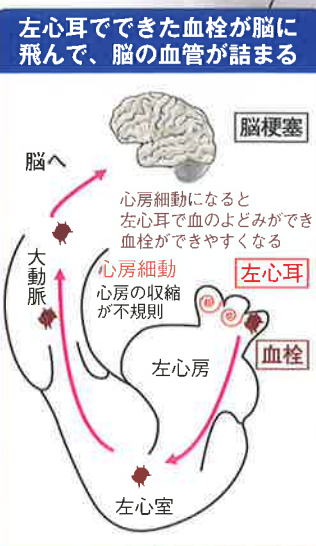
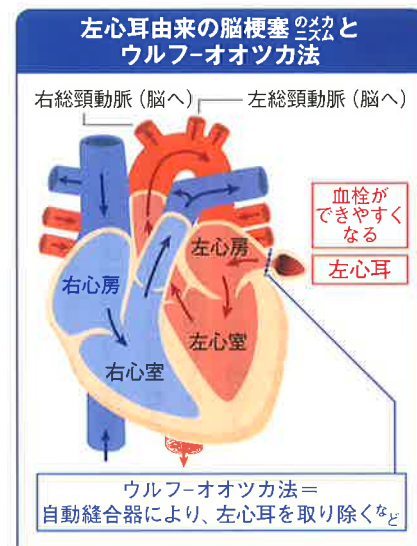
90

題字協力：石飛博光

アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

多職種連携・病院連携により 強力なハートチームを結成

NEWSな済生人 Interview



脳梗塞の原因の約3割が心房細動

伊東 ところで、プロ野球の読売巨人軍・長嶋茂雄元監督やサッカー日本代表の伊藤洋三選手、オシム元監督がかかって知られ

るようになった心房細動の背景にあるのが心房細動で、心臓の一部である「左心耳」が重要な鍵を握っています。

伊東 「左心耳」は聞き慣れない名称です。左心耳は左心房の外側にある幅4センチほどの突起物で、その内部は袋状になっていて血液で満たされています。心房細動が起きると血流は遅くなり、左心耳内で淀んで血栓ができやすくなります。左心耳でできた血栓は心臓から出て全身を巡り、心臓の冠動脈が詰まれば心筋梗塞、脳の血管が塞げば脳梗塞を引き起こします。脳梗塞の原因はいろいろありますが、その約30%が心房性です。

伊東 現在、当院で積極的に進んでいるのが、心房性脳梗塞を予防するためのウルフ・オオツカ法という治療法です。米国テキサス州のヒューストン・メソジスト病院ドバキー心臓血管センターのランドール・ウルフ医師とニューハート・ワタナベ

心な原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

富永 どのような治療が行なわれるのでしょうか。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

きな原因は加齢で、80歳以上では有病率10%といわれていますが、心臓病、高血圧、糖尿病などの持病があると発症リスクが高まります。心房細動が続くと将来心不全を発症するリスクも高くなります。

伊東 心房細動の治療は薬物療法、焼灼(カテーテルアブレーション)、手術などがあります。近年急速に普及しているカテーテルアブレーションですが、治療後の心房細動の再発率は30〜40%と高く、課題もあります。

心原性脳梗塞を予防するウルフ・オオツカ法 山口県・北九州地区で先駆的に導入、実績を誇る

〈山口〉下関総合病院
副院長兼心臓血管外科科長

伊東博史さん

※写真撮影時のみマスクを外しています



伊東 はい。日本では心房細動の患者は100万人以上と推定されており、高齢人口の増加に伴って、隠れ心房細動も相当数いると考えられています。心房細動の大

伊東 ハートチームは心臓血管外科と循環器内科を軸に、画像診断専門医、麻酔医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など、集中治療のエキスパートで構成されています。心臓血管外科には私を含め4人の専門医がいます。

伊東 ハートチームにはどのような職種が参加しているのでしょうか。

伊東 ハートチームは心臓血管外科と循環器内科を軸に、画像診断専門医、麻酔医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など、集中治療のエキスパートで構成されています。心臓血管外科には私を含め4人の専門医がいます。

伊東 ハートチームにはどのような職種が参加しているのでしょうか。

伊東 ハートチームは心臓血管外科と循環器内科を軸に、画像診断専門医、麻酔医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など、集中治療のエキスパートで構成されています。心臓血管外科には私を含め4人の専門医がいます。

伊東 ハートチームにはどのような職種が参加しているのでしょうか。

伊東 ハートチームは心臓血管外科と循環器内科を軸に、画像診断専門医、麻酔医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など、集中治療のエキスパートで構成されています。心臓血管外科には私を含め4人の専門医がいます。

伊東 ハートチームにはどのような職種が参加しているのでしょうか。

伊東 ハートチームは心臓血管外科と循環器内科を軸に、画像診断専門医、麻酔医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など、集中治療のエキスパートで構成されています。心臓血管外科には私を含め4人の専門医がいます。

伊東 ハートチームにはどのような職種が参加しているのでしょうか。

伊東 ハートチームは心臓血管外科と循環器内科を軸に、画像診断専門医、麻酔医、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など、集中治療のエキスパートで構成されています。心臓血管外科には私を含め4人の専門医がいます。

患者が最適な治療を 選択できるように 治療の選択肢を積極的に情報提供

ンを勧められましたが、けがをすることが多く、抗凝固療法の影響を懸念してウルフ・オオツカ法を選択しました。インターネッで自分に合った治療法を探してウルフ・オオツカ法を知り、当院にたどり着くケースは少なくありません。

富永 治療費はいくらかかりますか。

伊東 DPCベースで約180万円です。さらに、抗凝固薬が必要になるので、患者の負担軽減に大きく寄与します。一方、ウォッチマンとアブレーションを同時に行なった場合の医療費は400から500万円かかると考えられます。ウォッチマンの



2020年6月に結成された下関総合病院の「ハートチーム」。幅広い心臓血管病治療に対応するため、循環器内科医と心臓血管外科医を中心としたチームが共同で診療にあたる

なかった⑤カテーテルアブレーションができな

「左心耳って切除していいんですか」と初歩的な問いにも、丁寧に分かりやすく説明いただきました。他の標準治療と比べ普及率の面がありますが、患者の身体的負担

内科・外科の垣根を越えて 患者さんに最善の治療を

富永 今後の展望について教えてください。

「左心耳って切除していいんですか」と初歩的な問いにも、丁寧に分かりやすく説明いただきました。他の標準治療と比べ普及率の面がありますが、患者の身体的負担



富永 心臓血管外科と循環器内科が協力し合

材料費だけで160万円程度かかりますので、これはウルフ・オオツカ法にかかる総医療費と同程度です。繰り返しますが、ウルフ・オオツカ法では左心耳閉鎖とアブレーションを同時に行なっている点で、治療費の面からもウルフ・オオツカ法は優れた治療法であると考えています。

富永 医療経済の点でもウルフ・オオツカ法に軍配が上がりませんか。現在、ウルフ・オオツカ法はどれくらい普及していますか。

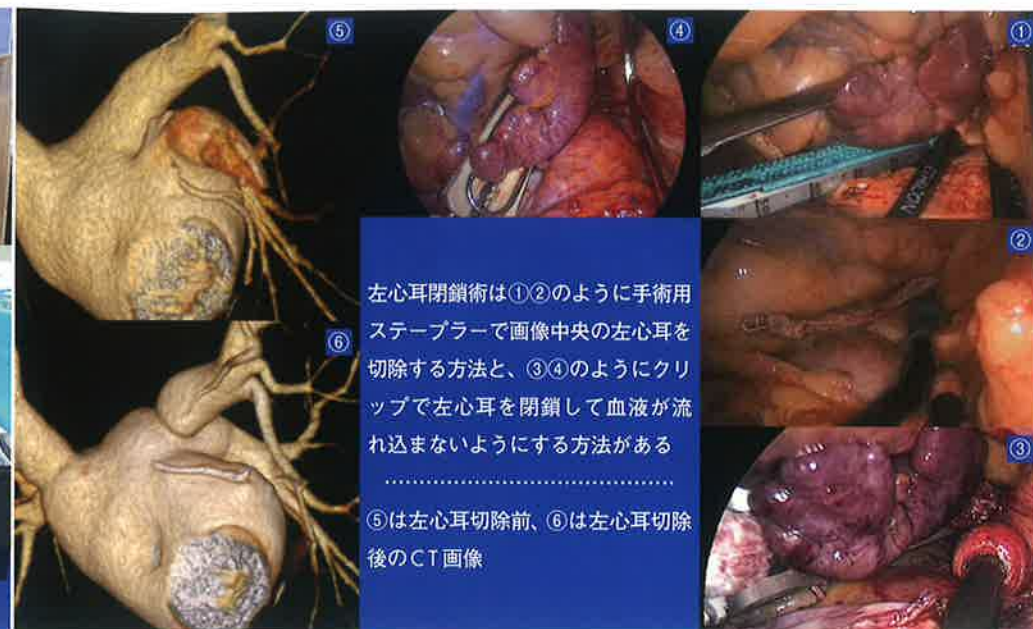
伊東 胸腔鏡を使った手術は心臓血管外科医より呼吸器外科医の方が慣れています。心臓血管外科になじみのない手技であるため、期待するほど普及していないのが現状です。当院でも当初は呼吸器外科に協力してもらい、症例を重ねながら独特の手技に慣れていきました。上達過程をグラフ化した経験曲線（ラーニングカーブ）を見ると、30例に達する頃から手術時間が一定になりました。

担・医療費負担、医療経済の観点からも大きなメリットがあるこの治療法。広報の立場として「いろいろな治療選択肢を伝える」役割の大切さを実感しました。（富永朋美）

富永 今後の展望について教えてください。

富永 心臓血管外科と循環器内科が協力し合

伊東 山口・北九州エリアでウルフ・オオツカ法を行なっているのはほぼ当院だけです。病診連携によって地域に強力なハートチームができています。前述したように、カテーテルアブレーション後に心房細動が再発するケースは少なくありません。地域のクリニックで再発の予後を考慮してウルフ・オオツカ法を勧められ、当院を受診する患者が増えています。



左心耳閉鎖術は①②のように手術用ステープラーで画像中央の左心耳を切除する方法と、③④のようにクリップで左心耳を閉鎖して血液が流れ込まないようにする方法がある

⑤は左心耳切除前、⑥は左心耳切除後のCT画像

伊東 簡単に説明すると、胸壁4カ所を5〜10ミリほど切開し、そこから手術器具を入れて行なう手術です。左心耳の根元をヘアアイロンのような形をした自動縫合器で挟み、切断と同時に縫合します。また、心房細動を引き起こす異常な電気信号は、主に左心房の上部にある肺静脈の入り口周囲から発生するため、心筋を焼灼して電気の流れを整えるアブレーションも行ないます。心房細動では、肺静脈の開

えるように動くのが特徴です。この二つの治療を1回の手術でできるのがウルフ・オオツカ法の大きな特徴です。手術時間は約1時間30分、入院期間は3〜7日です。

富永 左心耳は心臓の一部ですよね。切り取って問題はないのですか。

伊東 左心耳は胎児の体内で、心臓が形成される過程で原始心房として血液を送り出すポンプの役割を果たしていたもので、産まれた瞬間にその役割は終わります。心臓の機能を維持する上で特に必要なものではありません。

富永 どのような経緯でこの治療法を導入したのですか。

伊東 脳梗塞でウルフ・オオツカ法の治療を受けた同門の開業されている外科の先生から勧められたのがきっかけです。正直なところ、最初は半信半疑でしたが、すでに1990年代には心臓の外科手術時に左心耳を切り取っておくと脳梗塞になりにくいという報告がされていたので、この機会にと踏み切りました。ウルフ・オオツカ法は実はもう一つ大きなメリットがあり、抗凝固療法からの解放が期待できるのです。

富永 どういうことでしょうか。

伊東 心房細動は初期であればカテーテルアブレーションで治療が可能ですが、日本循環器学会や欧米のガイドラインは70歳以上の患者に対してカテーテルアブレーション



伊東 心房性脳梗塞の再発予防には、左心房内から栓をして左心耳に血液が入らないようにする内科的な治療法（ウォッチマン法）もあり、治療後は抗血小板薬を継続します。ウルフ・オオツカ法は術後に抗凝固療法を中止しても再発率は0.25〜0.5%です。

富永 再発率がかなり抑えられていますね。

伊東 当院では2017年からこれまでに230例以上の症例がありますが、抗凝固療法中止による脳梗塞の再発は1例もありません。

富永 どのような患者がウルフ・オオツカ法の適応になりますか。

伊東 心房細動で、①抗凝固薬の副作用で出血する②抗凝固薬を服用していても脳梗塞になる③定期的に薬を服用することが難しい④カテーテルアブレーションで治療し

ンで心房細動が治癒しても、抗凝固療法を継続して行なうことを推奨しています。また、心房性脳梗塞の予防のために心房などでの血栓の生成を抑える抗凝固薬を服用し続けるのが一般的です。実はこの薬物療法は両刃の剣で、血液がサラサラになって血栓ができにくくなる反面、凝固しにくくなるため、高齢者では重篤な出血を引き起こすリスクもあります。

富永 抗凝固薬を服用し続ける必要がなくなるのは、患者にはありがたいですね。

際病院（東京都杉並区）の大塚俊哉医師が共同で開発した治療法で、大塚医師がさらに内視鏡（胸腔鏡）を使って行なう方法に発展させ、22年4月に保険収載されました。

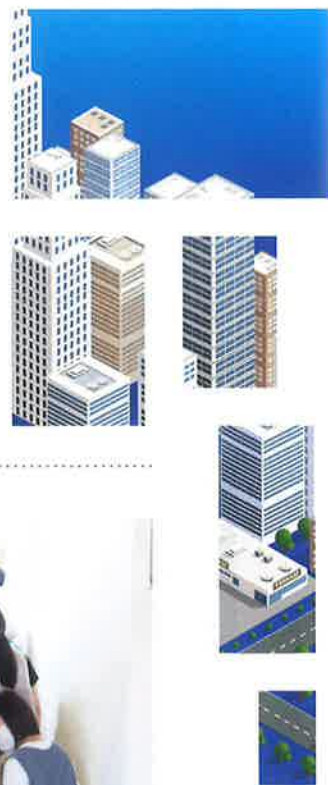
富永 どのような治療法ですか。

伊東 簡単に説明すると、胸壁4カ所を5〜10ミリほど切開し、そこから手術器具を入れて行なう手術です。左心耳の根元をヘアアイロンのような形をした自動縫合器で挟み、切断と同時に縫合します。また、心房細動を引き起こす異常な電気信号は、主に左心房の上部にある肺静脈の入り口周囲から発生するため、心筋を焼灼して電気の流れを整えるアブレーションも行ないます。心房細動では、肺静脈の開



活動の途中でややつも楽しんだり、しっかりと水分補給を行なう

持ち物は「防災おさんぽ」の
で歩きました。



シンボルとなる防災リュックです。中には保護者の皆さんに準備いただいた水と好きなお菓子などを入れていきます。リュックは「これから何をするか」を視覚的に伝えるサインであり、お菓子は「楽しい経験」として記憶に残すための動機づけです。また、対応方法を伝えるツールとして、リュックには個人カードを下げています。表には移動時の対応シンボル（みんなであるく、てをつなぐ、だっこ）、裏には担任が対応ポイントを記したヘルプカードを入れていきます。

子どもたちの特性を知らない方が支援する場合、落ち着いて歩けそうに見えても飛び出しの危険があるなど、判断が難しい場面があります。一目で支援方法が分かるシンボルは、子どもの安全を守るだけでなく、対応する大人の不安を軽減する役割も果たします。

「防災おさんぽ」には全職員に加え、地域の民生委員さんにご参加いただいています。子どもたちは民生委員さんとも手をつ



防災おさんぽで子どもたちの成長を実感。「一緒に行こう」とお友だちを誘う一幕も



雨天時には園内でリュックを背負って避難の訓練

ないでお散歩し、戻った後は一緒に遊んでもらいます。子どもたちから呼びかける姿も見られ、親しみのある方との楽しい記憶



職員や民生委員と手をつないで楽しくおさんぽ



1回目の防災おさんぽでは園の駐車場を一周

熊本地震の経験から生まれた「防災おさんぽ」

“いつも”の遊びで “もしも”に備える



筆者の山田さん

熊本市南区にある当園は、障がいのある就学前のお子さんが通園する施設です。「一人ひとりの持てる力を引き出し、育み、生きていく力の基礎づくりをします」を理念とし、主となる毎日通園クラスには、自閉スペクトラム症、および知的発達に緩やかさのあるお子さんたちが在籍しています。当園では現在、2025年1月に受講した「医療的ケア児コーディネーター養成研修」で学んだ「防災散歩」の考え方を応用し、「防災おさんぽ」を実施しています。



「おさんぽ」を実施しています。当園に通う子どもたちは、初めての場所や人に強い不安を抱きやすく、また地域の方もコミュニケーションに戸惑うことがあります。だからこそ、障がい種別や医療的ケアの有無にかかわらず、日常の「遊び」を通して地域を知り、安心できる場所や人を増やしておくことが、災害時の安全につながると考えました。

熊本に住む私たちにとって「防災」は、2016年の熊本地震の記憶を呼び起こす言葉です。当園は本震（土曜）の翌週月曜日に開所。その際、恐怖心から自宅や建物に入れないお子さんが、園でいつも通りブランコに揺られ楽しむ姿が思い出されます。

この経験と研修での学びから、日々の安心できる時間や楽しい記憶こそが子どもの安全の支えになると確信し、民生委員さんとの連携やツール作成の準備を経て、今年4月から取り組みを開始しました。

分ほどの避難所（公民館）まで歩いていくことです。4月25日の初回は駐車場を一周、6月27日の2回目は雨天だったため園2階への避難訓練、8月22日の3回目は最も近い避難所である団地内集会場（徒歩約10分）ま



防災おさんぽのキーアイテムである防災リュックには対応方法を伝えるツールをぶら下げている

寿地区 無料健康診断

神奈川県済生会
〈神奈川〉横浜若草病院
済生記者
長澤伸哉



開始時間になると、健診会場に受診希望者が集まり外にまで列ができる

子どもが自ら育つ力と 大人が提供する環境

として残っているようです。
「おさんぽ」は日常の遊びの一部であり、楽しみながら経験を重ねる子どもたちにとって「防災おさんぽ」もなじみのある言葉の一つとなっているようです。

す。「防災」の理解に関しては個々の育ちに合わせ、まずは防災リユックを使用する時は遊びを中断し応じるというルーティンを通し、行動に意味づけをしています。
2カ月に1回の経験を重ねる中で、そつと友だちを誘ったり、水を飲めなかった子どもがわず

かに口をつけてみたりする姿が見られます。何より、担任の先生が準備する山積み防災リユックに気づくと、自ら集まる子どもたちの姿から、子どもは安心・安全な時間と空間、遊びを保障されることで自分の力で育つということをお互に教えられました。

想定外のことも次につながる一つの経験となるよう、私たち大人の役割は子どもたちが育つための環境を提供することです。人と人とのつながりの中で子どもたちの「はじめの一步」を共に支えていきたいと思っています。

変わりゆく日雇い労働者の街 「誰一人取り残さな 支援を目指して

神奈川県済生会はソーシャルインクルージョン事業の一環として、2015年2月から横浜市中区寿町で無料健康診断事業を継続的に行なっています（コロナ禍で20年に中断、24年2月に再開）。

神奈川県済生会の6病院（神奈川県病院、横浜市東部病院、横浜市南部病院、横浜若草病院、東神奈川リハビリテーション病院、湘南平塚病院）

のMSWが企画・運営し、横浜市や地元支援グループ「炊き出しの会」と連携して毎年度2回実施。「炊き出しの会」の方々は、毎週金曜



筆者の長澤さん

日に行なう炊き出しの会での無料健康診断チラシ配布、町内の簡易宿泊所や地域の支援団体への告知などに協力してもらっています。健康当日も備品の貸出しのほか、済生会の職員とともに会場や周辺の路上で気になる方に声をかけ、健診を受けるよう勧めてくれています。

また、神奈川県済生会では検



健診当日は会場の外や、周辺の路上でチラシを持って呼び込みを行なう

診車を持っていないため、静岡県済生会の協力を得て健診実施初回から静岡済生会総合病院に検診車を派遣してもらっています。

10月31日、6病院から医師・看護師・臨床検査技師・MSW・事務員、支部や病院の事務長、総勢35人が横浜市寿町健康福祉交流センターに出張し、今年度1回目の無料健診を実施。午前

10時に開始し、検査項目は身体計測（身長・体重）、視力検査、血圧測定、採血、採尿、胸部X線検査、診察です。12時の健診終了までに、57人が受診しました。健診の結果配布は炊き出しの会の日程に合わせて行ないます。

例年、横浜市による結核無料健診事業と時期をずらして行なっていました。前年度を最後に市の事業が終了。「寿町で胸部X線検査を行なうことは、結核の感染拡大防止の観点からも大切」との意見もあり、済生会が寿町で定期的に健診を行なう社会的必要性は大きくなったと筆者は感じています。健診受診によって病気が見つかり、医療機関での治療に結びつくことも少なくありません。

街の変化とともに 新たな地域課題が顕在化

かつては「日雇い労働者の街」と呼ばれた寿町も、徐々に変化しています。高齢化が進み、飲み屋があった場所は軒並みディスコやサウナ事業所に変わっています。静岡から検診車を運転して毎回来てくれる静岡済生会総合病院の木下晃弥さんが「健診を



開始前の問診チーム。手前から横浜若草病院・吉田勉事務部長代行、横浜市東部病院・高杉知史事務部長代行、神奈川県病院・田中光男事務主任、静岡済生会総合病院・杉本慎平MSW



重症心身障害児（者）施設サルビア（横浜市東部病院内）施設長の酒井章医師は、2015年の初回の健診から皆勤で関わっている



看護師が採血を実施



身体計測を行なう事務員

受けに来る人もこの5年くらいで入れ替わったな」と話しているのが印象的でした。
令和2年11月時点で、寿町を含む寿地区にある簡易宿泊所の宿泊者数は約5800人。そのほとんどが単身者で、高齢化率は50%を超えています（横浜市資料）。一方で町内への外国

人居住者の流入も見られるなど、住民構成が多様化しています。また、町内のいくつかの簡易宿泊所が、横浜市の制度を利用した無料低額宿泊所に変わりました。無料低額宿泊所はホームレスを含む生活困窮者の支援を目的とした福祉施設ですが、金銭面などの管理的な体制になじ

栃木で2回目の「連携士養成研修」 支部開催 分野横断的な視点で 地域課題を議論



栃木県済生会

10月25・26日の2日間、栃木県済生会主催の「済生会地域包括ケア連携士養成研修会」の対面研修を、〈栃木〉宇都宮病院みやのわホールで開催しました。当支部開催は昨年に続き2回

目で、40人の専門職が参加。地域共生社会の実現には多層的な機関の連携が不可欠で、その基盤づくりとして多職種が顔を合わせる本研修は、非常に意義深い機会となりました。

研修初日には、村井クリニック院長・村井邦彦医師（宇都宮市医師会）が、医療・福祉・介護の連携の重要性について解説。また、作新学院大学・高浜浩二教授が、ソーシャルワークに必要な課題分析の基本を紹介しました。

グループワークでは多様な視点から意見を交わすことで、解決への糸口を見出す貴重な経験が得られました。

参加者からは「分野の垣根を

学生と共に創る「終活」支援 地域住民が自分らしく生きるために



当院は毎月1回、大久保商店街のお休み処で「なでしこ相談会」を開催。健康チェックや福

超えた連携の感覚を実感できた」などの声が多数寄せられました。（地域連携課 川田綾香）

祉・終活・ACP（人生会議）の相談、健診案内など、多面的な支援を行なっています。

9月25日は千葉工業大学の中村直人教授とゼミ生6人、身元保証会社「愛の会」の社会福祉士・岡江晃児さんと連携し、共同開発した終活支援アプリ「終活トライ」を活用した体験型相談会を実施しました。

このアプリは自身の終活の準備状況を点検化し、ゲーム感覚で取り組めるというもの。エンディングノートへの記入や医療・介護の意思表示、財産の整理など、各項目をチェックすることで自分の「今」を客観的に把握することが出来ます。

当日は地域住民24人が参加。学生がアプリ操作をサポートしながら、共に終活を考えることで、世代を超えた学びと気づきが生まれる機会となりました。（福祉相談室長 村田智美）

ソーシャルインクルージョン

済生会ではソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1800の事業を展開します。



静岡済生会総合病院の検診車をバックに、10月31日の無料健診事業の参加スタッフ一同

めない人が、結果的に自ら出ていき路上生活者に戻ってしまう可能性も考えられます。

大事にされるなんて初めて

寿町では生活困窮や社会的孤立の問題に加え、単身独居高齢者や要介護者への対応など、複合的な健康・福祉ニーズが増大しています。生活保護を受給することで介護保険サービスが利用可能ですが、家族のサポートもない中で多くの課題が予想されます。

「炊き出しの会」の方からは「健診時に寿町の方たちに丁寧な接してくださることがありがたい」「大事にされるなんて初めて」と言われたこともある」との声がありました。

「大事にされるなんて初めて」――その言葉の重みに思いを巡らすと、済生会が行なう健診は医療的支援のみならず「人として尊重し、温かく関わる」人権擁護の側面もあり、継続することの大切さを改めて感じました。今後も可能な限り協力していきたいと考えています。

今回の無料健診は来年3月下旬の実施予定です。私見ではありますが「これぞ済生会、これも済生会」な体験ができると考えています。興味のある方は是非ご連絡ください。

ペリリュー ― 楽園のゲルニカ ―

映画公開記念・『済生』読者プレゼント

ペリリュー ― 楽園のゲルニカ ― 全国公開中 配給：東映
©武田一義・白泉社／2025「ペリリュー ― 楽園のゲルニカ ―」製作委員会

美しい南の楽園・ペリリュー島で起こった恐ろしい戦いを史実に基づいてアニメ映画化。太平洋戦争末期の昭和19年、攻める米兵4万人に対して、迎え撃つ日本軍は1万人。その1人である漫画化志望の田丸均はその才を買われ特別な任務を命じられる。それは仲間の最期の勇姿を遺族に向けて手紙を書き記す「功績係」という仕事だった。日本兵は次第に追い詰められ、玉砕も禁じられた持久戦を強いられてゆく。最後まで生き残った日本兵はわずか34人。若き兵士が戦場で見たものとは。

映画公開記念にオリジナルグッズ【スケッチブック・手ぬぐい・ステッカー】を抽選で3人にプレゼント！ 二次元コードからご応募ください。
※申し込みは12月末まで ※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます

生き残る、ふたりの約束

ペリリュー
― 楽園のゲルニカ ―

12.5
-FRI-

路上生活者を対象に インフルエンザ予防接種

福岡総合病院



10月15日、当院と隣接する天神中央公園で、路上生活者および福岡市一次生活支援施設の入所者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施しました。

行政やNPO支援団体と連携しながら、流行期を前に毎年実施。医師・看護師・MSW・運転士・事務員が現地に赴き、今年は24人に接種を行いました。

接種後、おにぎりとお茶、靴下をお渡しし、本格的に流行する時期を無事に過ごしていただくよう声をかけました。

当院では生活困窮者支援事業「なでしこプラン」の一環で、インフルエンザ予防接種・健康相談、更生保護施設訪問健診などを実施しています。今後も経済的な理由などで医療を受けられずに困っている方々への医療面・福祉面の支援を継続していきます。

(済生記者 電永朋実)



兵庫県済生会では、済生会地域包括ケア連携士の主導により、社会貢献活動として初めてのフードドライブに取り組みました。

物価高騰の影響で、子どもたちが集う場の運営が難しくなっている現状を知り、「少しでも力になりたい」という思いから企画したものです。

9月の1カ月間、兵庫県病院と〈兵庫〉特養ふじの里で食品

の寄付を募集したところ、レトルトカレーやパスタソース、お米など16品目・318点が集まりました。

左右田裕生院長と地域包括ケア連携士・医療福祉連携士が10月20日に神戸市北区社会福祉協議会、21日に三田市役所を訪問し、集まった食品を直接お渡ししました。

今後は、食品に限らず日用品や学習用品など、支援の輪をさらに広げていきたいと考えています。

(兵庫県病院 総合支援センター 社会福祉士 大坪愛実)

温かい思いを添えて笑顔をつなぐ 初めてのフードドライブ

兵庫県済生会



第一弾は人気ベーグル屋とのコラボ！ 事業者との連携で地域経済活性化

〈福岡〉飯塚嘉穂病院



当院では、病院周辺の事業者を中心に連携し、まちづくりに貢献することを目的とした「地域共創プロジェクト」を試行的に始めました。

第一弾として、10月15日に桂川町で人気のベーグル屋「SUPER BAGEL」が院内に出店しました。その反響はさまざま、開店直後から約30分で150個が完売。購入した方からは「おいしかった！」「次も楽しみたい」といった声をいただき、地域の事業者と病院が連携することの意義を実感しました。

11月13日には職員向けの販売

を実施。事前予約制を導入したところ、1日の製造数が約560個と過去最高を記録するほどになりました。

プロジェクトでは、地域の事業者と新しいことを一緒に創り上げることが目指しています。

更生保護施設の入所者を対象に インフルエンザ予防接種

〈大阪〉吹田病院



した。今年は日頃、医療支援で関わっている更生保護施設愛正会の入所者さんに限定して行ないました。

当日は7人が来院し、MSWが検温や問診票の記入をサポート。研修医3人による問診の後、看護師3人が接種を行いました。

まだ始まったばかりですが、患者さんやご家族、地域の皆さんに笑顔をお届けし、地域経済の活性化にも貢献していきます。

(済生記者 松岡亜希)



初めて来院する方も多く、接種時の痛みを恐れて緊張している方もいましたが、多数の職員の協力のもとスムーズに終えました。

病院職員としてもインフルエンザ等の感染予防を意識する貴重な機会ですが、合間には家族の病気や入院のエピソードを話してくださる方もいて、何気ないコミュニケーションの場にもなりました。

(福祉医療支援課 MSW 長田悠子)



違いを認め合い、支え合い、 共に生きる済生会フェア



地域へ医療で広がる笑顔の輪



車椅子や松葉杖を使ったりハビリティ体験・食塩のグラム数を計るチャレンジも実施され、参加した子どもたちからは「うまくタイヤが曲がらなくて難しかった」「食塩6グラムってこんなに少ないんだー」といった驚きの声飛び交いました。

特別出展では北海道済生会が製作するフィギュア入り缶詰「おたる水族館」ワークショップやモルック体験を実施。〈千葉〉習志野病院が幸呼来Jadaに寄付した着物を用いて裂き織の技術で作られたコースター、障害者就労継続支援事業の〈松山〉ワークステーションなど、と〈熊本〉済生会ほほえみのお菓子販売も行なわれました。

また、NPO法人わらすば・通信制高校サポート校の高校生による手作りスイーツ販売、地元飲食店のキッチンカー出店、救急車や地元企業の北良株式会社、災害支援車両の車内体験なども実施され、地域全体でフェアを盛り上げました。

北上済生会病院では本フェア開催にあわせ2種類のチラシを制作。NPO法人ハックの家に入所する松家圭輔さんが描いたイラストと、北上アビリティセンターに入所するOnukiさんが描いたロゴを使用、繊細で温かみのあるデザインに仕上がりました。同じデザインでロールアップスクリーンを作成。フォトスボットも設置され、参加者は記念撮影をしていました。(本部広報課 杉山 菜央)

午前9時50分に福島明宗院長が正面入口にて開会挨拶。済生会の歴史や取り組みを知ってもらい、医療をより身近に感じてもらえるように、楽しく学びながら、地域住民とつながることを目的とした多彩な企画を多く実施しました。

フェアの目玉は医療の仕事体験イベント。本物そっくりな作られた胃の模型の中を内視鏡で観察する体験や手術の模擬体験、シミュレーターを用いた採血・点滴・注射など看護師体験、お菓子を一包化する薬剤師体験や人工腎臓を使って液体を濾過する透析体験など、多くの医療職の魅力を発信しました。

済生会と地域が
一体に

社会のあり方を
医療現場から
地域へ広げる

〈岩手〉北上済生会病院



会場となった福井県済生会病院。冒頭、福井県済生会職員による支援現場の声をまとめた動画が放映された。シンポジウムは福井県が共催、福井市、教育委員会、社協、福井新聞社、福井放送が後援した



基調講演

藤原美由紀・福井県健康福祉部児童家庭課長は県内に6カ所整備されている児童家庭支援センターについて、地域の専門相談窓口として住民などからの相談に応じ、て助言し、ていて、こを説明。児童養護施設で育ち現在は同施設で職員として働く板谷ゆりさんは当事者としての体験

活動を支える存在であるべき」と語りました。パネルディスカッションでは橋本氏がコーディネーターを務め、それぞれの立場で支援する4人が取り組みを発表しました。



藤原氏

談を語り、短大生活でリズムが崩れ施設職員と距離を置いた時期もあったが変わず寄り添ってくれた経験から、支援は制度だけでなく社会全体で見守っていく形が大切と話しました。

福井県で自立援助ホームや子どもシェルターを運営する一般社団法人ラシーヌの端将一郎代表理事は繁華街の巡回やネットパトロールなどのアウトリーチも行ない、家に帰りづらいなどの事情を抱える子どもたちへの



端氏

支援をする活動を紹介しました。

2014年4月に開設した性暴力救済センター・ふくい「ひなぎく」の取り組みを発表した福井県済生会病院公認心理師・臨床心理士の車屋知美さんは性



笠原氏

最後に笠原善郎・福井県済生会病院院長が「本日の学びを職員と共有して、当院が貢献できることを改めて考えたい」とあいさつしました。



車屋氏

暴力は心と体だけでなく行動面や生活面にも影響が及ぶと解説「ひなぎく」では支援看護師の資格を持つ看護師が警察や弁護士と連携して相談者を支援していると説明しました。



報告 生活困窮者問題シンポジウム

支援の糸口を、私たちから 生きづらさを抱える若者を支える福井の力

福井県済生会病院 済生記者 橋本来林

第15回生活困窮者問題シンポジウムが10月18日、福井県済生会病院で開かれ、地域住民や福祉関係者ら約200人が参加しました。

テーマは「支援の糸口を、私たちから 生きづらさを抱える若者を支える福井の力」。



炭谷氏

若者を支える福井の力。生きづらいつと感じていても相談先や居場所が見つからない。困難な状況にありながらも自ら声を上げることができない女性や子どもたちへの支援を考えました。はじめに、炭谷茂・済生会理事長と鷺頭美央・福井県済生会会長（福井県副知事）が開会あいさつ。登谷大修・福井県済生会支部長がシンポジウムの趣旨説明をしました。刑務所出所者



鷺頭氏



橋本氏

会の歪み、個人の自由志向の高まりと社会の希薄化などの現代社会の問題を解説。「地域共生社会の実現には専門家のケア（支援）、地域住民のチア（応援）、当事者市民のピア（支え）の三つ連携が重要で、行政はこれらの



登谷氏

への支援など福井県済生会が取り組む生活困窮者支援について職員のメッセージ動画も放映されました。

基調講演は厚労省社会保障審議会の委員も務める橋本達昌・社会的養育地域支援ネットワーク代表理事が「生きづらさを抱える若い女性や子どもたちを地域で支えるために私たちができること」と題し講演しました。橋本氏は情報過多がもたらす社

2024年8月、発見が極めて難しいとされる

浸潤性小葉がんに罹患したことを

公表した梅宮さん。以降、右乳房の全摘出、

抗がん剤治療、放射線治療など、

自らの治療体験を精力的に発信。

※ 標準治療の重要性を伝えるとともに、

元気な姿を見せることが、

誰かの希望になればと願っている。

がんになった

ことには

意味があるはず。

標準治療の素晴らしさを伝えたい

Text：新亜希子

Photos : 大村祐里子

病気が分かったその日、「がんになったことには、意味があるんじゃないかと思った」と、梅宮さん。「がんのこと、標準治療のことを伝えていこうと思います」。人それぞれの部分が大きい病気ですから、あくまで『私の場合はこちらだったよ』という話ですが、知ってもらうことに意味があるんじゃないかと」。

最初に使った抗がん剤は、ア

アメリカで「レッドデビル」と呼ばれている真つ赤な薬。当初は仕事と治療を並行して行なっていたが、4回目の投与後にカリ二肺炎に罹患。息をすることができず、死を意識した。

治療を始めて1年。「生活に制限はありません。ただ薬は毎日飲んでいて、そのうちの一つは10年間飲み続けます。乳がんの治療は長く、再発率も心に留

の希望になっ
たらいいなと
思います。勇
気は必要でし
たが、『きちん
と標準治療を
受けて、元氣
になったよ』
と、がんサバ
イバーとして
伝えたいです」

うめみや・あんな 1972年8月20年生まれ、東京都出身。俳優の梅宮辰夫、元アメリカ人モデルの梅宮クラウドピアを母にもつハーフ。1992年、スカウトをきっかけに芸能活動を始め、人気女性誌『JJ』のレギュラーモデルに。テレビ番組やドラマ出演など、活動の幅を広げる。2002年、長女を出産。2024年8月、乳がんに罹患したことを公表し、SNSやインタビューを通して自身の経験を積極的に発信している。2025年5月、アートディレクターの世継恭規氏と結婚。

めておかなければなりません」

梅宮さんの願いは、標準治療の素晴らしさを多くのの人に知ってほしいということ。「治療はすぐく大変だけど、標準治療を受けられるのであれば、受けてほしい。怪しげな治療を絶対に選ばないでほしいし、それを商売としてしている人のことは、すごく無責任だと思う」。

「今も毎日、がんばと告知を受ける人がたくさんいます」。自分にもできることがあるはずだと、病気を公表し、情報や経

んを告知され、世界が一変した日——自分ががんになった意味を考えたという梅宮さん。ここから新たな人生が始まるのだと捉え、全てをさらけ出すことを決意。今、のちの誰かのために「標準療」の重要性を積極的に伝えている。今年は乳がんの話に加え、がんサバイバーとして自分のとだけではなく側にいる家族のあり方も伝えたいと、尊敬する伴侶・世継恭規氏との結婚の話も。

2025年富山でのトークショー「知ろう、乳がんとわたし」にて

※【標準治療とは】多くの臨床試験の結果をもとに専門家が集まって検討を行なった結果、診療ガイドライン等により有効性が認められている治療法のこと

梅宮アンナ
Anna Umemiya

Vol. 187



栗のお菓子は洋菓子でも美味しく開花。左から、濃厚な和栗の味と香りの「ふわふわ栗スフレ」、国産の栗餡を贅沢に使った「まぜとろ栗プリン」、クリスマス特別販売の「栗パブロバ―皓粧―」



艶やかに輝く黒糖羊羹にすっぽり包まれた「栗利久―雅―」。大粒の栗を中心にした切り口の美しさにもこだわっていて、テレビや雑誌でも取り上げられている。頬張るほどに栗本来の味がゆっくり口の中で広がっていく。栗好きでなくても気の利いた手土産として喜ばれるはず



にもこだわっていて、テレビや雑誌でも取り上げられている。頬張るほどに栗本来の味がゆっくり口の中で広がっていく。栗好きでなくても気の利いた手土産として喜ばれるはず

それぞれの栗のてっぺん辺りからナイフを入れると、黒糖羊羹・栗の渋皮煮・栗餡の三層が美しい切り口を見せ、ここでもたしはし見とれてしまいます。三層それぞれの個性的な味を一度に楽しめるのがうれしい特徴。それではいただきます。全体をコーティングしてある黒糖羊羹は、濃厚な黒糖の香りとコクが秀逸。見た目ほど甘過ぎなくて、さっぱりした甘さが後を引きまします。主人公である大栗の渋皮煮は、しっとりとした食感が楽しめて、食べ応えもあるサイズ。さすがに選び抜かれた栗を使っているだけあって旨みが全然違います。一番下の栗餡は、滑らかで上品な口当たり。ひと口ごとに気持ちいがほっこりほぐれます。この三層の味のバランスが絶妙。熱い日本茶だけでなく、コーヒーや紅茶との相性もばっちり。お店ではオリジナルコーヒを合わせる方も多いとか。栗そのものの豊かな風味をじっくり堪能できる逸品「栗利久―雅―」。これから忙しくなる年末のおやつタイムに、お正月のお客様にも喜ばれること請け合いの上質スイーツです。



栗利久―雅―
4,200円(税込・送料別)
賞味期限……冷凍90日

お取り寄せ・お問い合わせは

日向利久庵

〒884-0001 宮崎県児湯郡高鍋町大字高鍋町684番地

TEL: 0983-23-1212

ホームページ: <https://hyugarikyuan.co.jp>

大粒の栗がぎっしりの 三層の断面にうっとり

黒く艶々とした「栗利久―雅―」は、大粒の国産栗をたっぷり10粒も使っているだけあって、ずっしりとした重量感。和の趣あるお皿に載せて、まずは見た目をゆっくり楽しみたいものです。

古事記や万葉集にも登場する栗は、古くから日本の食文化を支えてきた歴史ある食べもの。昔話のさるかに合戦では、正義の味方として大活躍して、好感度だってかなり上位です。私が少年時代を過ごした長野県では、学校帰りの道端に栗がたくさん落ちていて、イガの両側を足で抑えながら中の実を取り出して収穫？したものです。とは言え、栗はとげとげ部分が皮、茶色の堅い鬼皮部分が果肉、薄皮を含む美味しい中身が実は「種」であることを知ったのは、つい最近のことでした。今回は、そんな栗の豊かな味わいを満喫できる「栗三味」の甘味。見た目も美しい逸品です。



お店のコンセプト「喜ばれる栗の贅沢」を具現化した和菓子たち【上】「栗づくし―特別詰合せ―」(栗利久、黄樹)【中】2種類の味が楽しめる「栗きんとん」【下】「黄樹」「くる栗あん大福」「和栗もなか」

「栗利久―雅―」。選び抜かれた栗を贅沢に使った自信作です。栗餡に栗の渋皮煮を丸ごと10粒のせて、黒糖羊羹で上掛けしてあり、見た目の存在感がかなりあります。ちよつとポリウムがあり過ぎるという方には5粒のせたものもあり、自分へのごほうびとしても重宝しそうです。



かわいい栗をモチーフにした暖簾が甘党を誘う

口福につぼん

吉井省一

雅な栗の風味を極めた
日向で見つけた逸品
この人気スイーツを作っているのは、風情ある城下町高鍋にある「栗菓子処 日向利久庵」。和菓子と洋菓子で栗の旨みをと

ほとんど追求する名店です。店じまいしたお店のお菓子がなくなってしまうことを残念に思い、今の時代に合うように味の改良を重ねながらリブライディングして、この会社を立ち上げたそうです。こちらでは、古民家で伝統的な和菓子である「練り切り」作りの体験もできます。ホームページの動画をみると、初めてでも上手にできて楽しそう。私もやってみたくまりました。この「日向利久庵」の店名の由来となった代表的なお菓子が

栗利久―雅―

日向利久庵

宮崎県高鍋町



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

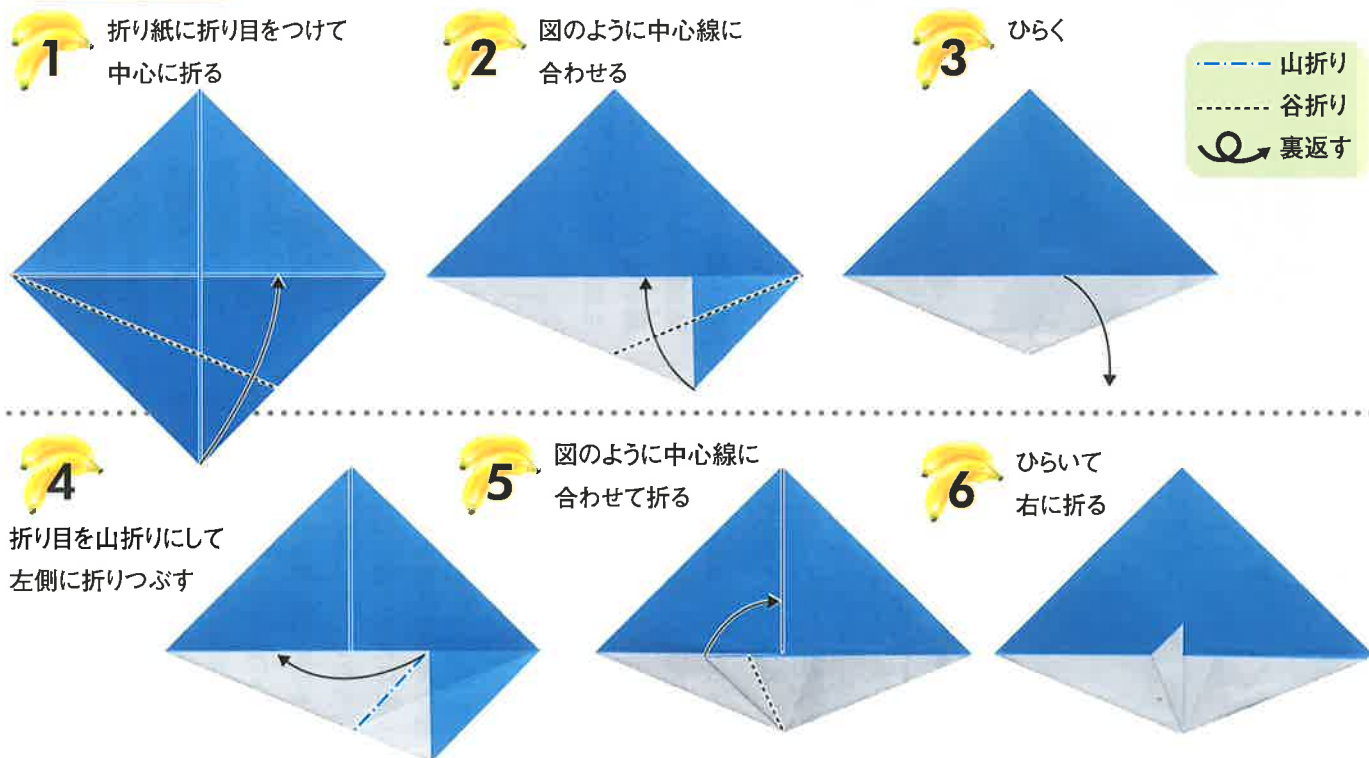


折り紙 1 枚で作る 富士山

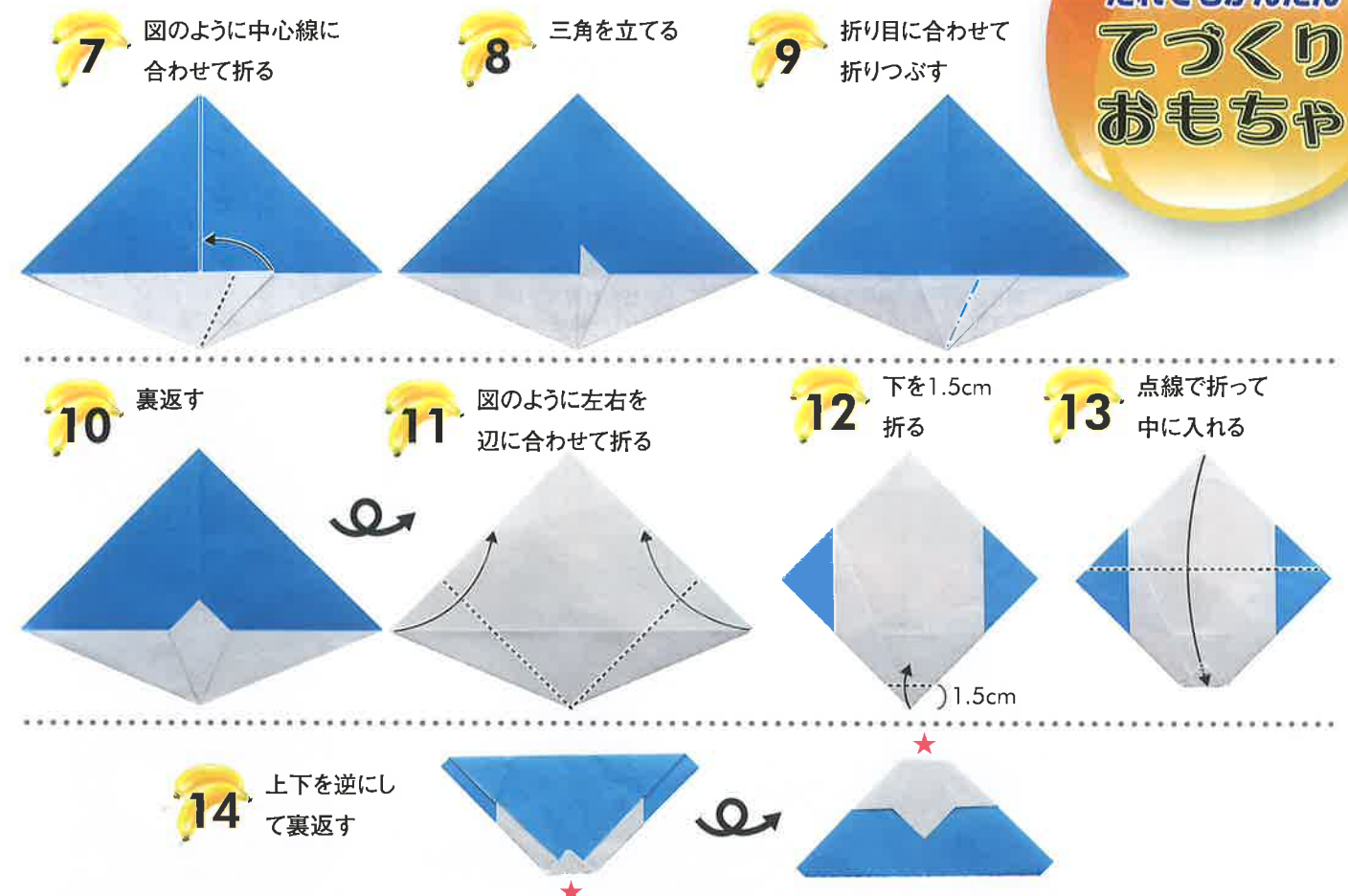
作品 いまいみさ



富士山



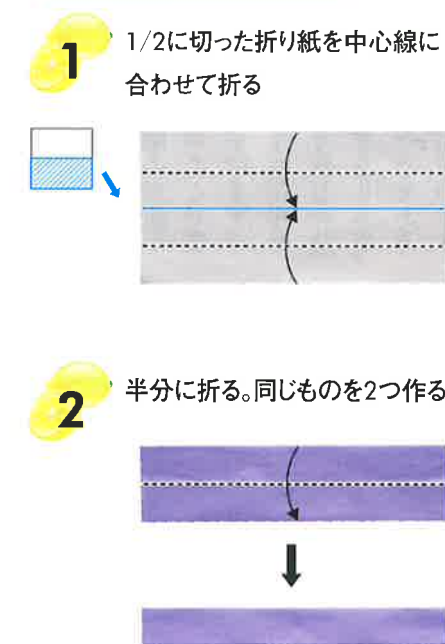
だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ



太陽



台紙のパーツ



組み方

1枚の折り紙の上下にパーツをはさみはり合
わせ、上のパーツの裏にひもを通してとめる



全国済生会事務(部)長会
院内保育研究会で、折り紙
教室を開催! 81ページを
ご覧ください♡



【いまいみさ】手づくりお
もちゃ作家。折り紙や牛
乳パックなどをリサイクル
して手づくりの楽しさを伝
えています。著書に
「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12
か月のおりがみ壁飾り」(講
談社)など39冊。最新刊は
「1年中使える! 決定版お
りがみ図鑑」(講談社)。動画もcheck!



作品・折り図: いまいみさ
おりがみ協力: 株式会社トーヨー



長崎病院託児所で10月15日、避難訓練を実施。子どもたちも真剣に取り組み、学びと体験を両立しました。詳細はP85をご覧ください。

topics

開園70周年の節目を迎えて

〈静岡〉川奈臨海学園

9月27日、伊豆今井浜東急ホテルで当園の開園70周年記念式典を開催しました。当日は、地域や関係機関の皆さんをはじめ86人が出席し、節目を祝う温かなひとときとなりました。

式典では、石山純三支部長が「川奈臨海学園は済生会で唯一の児童養護施設であり、子どもたちの生活に寄り添い、社会に送り出すその営みは、社会的にも極めて意義深い。支部長として誇りに思う」と力強い言葉で挨拶。学園の歩みと使命への深い理解と敬意が込められたその言葉に、会場には静かな感動が広がりました。

また、高校3年生の在園生が「学園がいつまでも変わらず在り続けてほしい」と職員に向けて語りかけ、会場は再び大きな感動に包まれました。

（保育士 後藤圭介）

★70周年おめでとうございませう！みんなの思いが伝わって温かい式典ですね。

（本部広報課 杉山菜央）



勉強会リレーで入居者の健康をサポート

グループホームの入居者さんの多くがジュースを飲むことを習慣としており、健康管理の観点から課題を感じていました。しかし、夕方まで就労している入居者さんに対して、日中勤務の看護師のみで取り組みを行うことは難しい状況がありました。

そこで、10月16日に入居者向

勉強会を看護師から支援員に実施。翌日から夕方巡回訪問する支援員が各ホームの入居者さんに勉強会をする「健康の勉強会リレー」を実施しました。



勉強会は「体験」「視覚化」「楽しい」をキーワードに①砂糖の試験②コーラなどに含まれる砂糖の量の視覚化③写真を見せクイズの実施、といった構成に。参加した入居者さんは「ジュースは飲まない」と宣言したり、「次は歯の勉強会して」と興味を示す方もいました。

長年の習慣を変えるのは難しいですが、健康に関心を持って過ごせるようスタッフ、入居者さんともに取り組んでいきたいと思っています。

（看護師 橋元佳代子）

〈島根〉老健高砂ケアセンター 働きやすい職場を考える

10月31日、当施設内で「働きやすい職場」と「働きがいのあ



今年7月、手術支援ロボット「ダビンチ」による手術件数が1000件を突破しました。当院では2017年7月にダ

ダビンチ手術件数 1000件を突破！

滋賀県病院

「「分かり合う」という究極かつ哲学的な対策に意見がまとまりましたが、「人の意見への批判・否定をしない」ルールのもと、いろいろな意見が出ることで、自分とは違う考え方もあると気付く機会になったと思います。」

（済生記者 木下 英）



ピンチを導入して以来、泌尿器科、外科、産婦人科を中心に、さまざまな疾患に対してロボット手術を実施してきました。

ダビンチ手術は、従来の手術に比べて傷が小さく、出血量が少ない低侵襲手術であり、術後の回復が早いことが特長です。また、高精度な3D画像と多関節の鉗子により、より繊細で正確な手術が可能です。

ロボット手術センター長の鴨井和実医師は「多くの患者さんにダビンチ手術を受けていただき、1000件に到達することができました。これからの患者さんの負担を少しでも軽減できるよう、チーム一丸となって取り組んでいきます」と述べました。

（済生記者 鶴飼健成）

〈東京〉中央病院

院内のユニクロで お買い物練習

10月3日、当院で働いている障がい者の方が、院内のユニクロの協力のもと「お買い物練習」をしました。

今回練習した職員は、普段一人で衣類の買うことが難しいとのこと、他のユニクロ店舗で保護者の方と事前に下見。練習当日は、院内のユニクロの店長と相談しながらお目当てのパーカーとワンピースを購入することができました。スタッフがと

ても親切で、安心して買い物できたそうです。

院内のユニクロでは、幅広い年齢の患者さんがさまざまな買い物をしていきます。「急な入院で下着がない」「寒いので上着が欲しい」「院内で使う小さな靴が欲しい」など、患者さんの要望は多岐にわたります。

このように、身近なことでソーシャルインクルージョンが実行されています。これから、夏と冬の前、気候が変わる時期の年2回、お買い物練習を実施する予定です。

（人事課 磯崎恵午）



〈群馬〉前橋病院

外科・八木医長が 国内外の学会で受賞

7月25・26日に開催された第56回日本臓器学会で、外科の八木直樹医長が「ロボット支援下脾臓十二指腸切除術」に関するビデオ発表を行い、第3位を受賞しました。

本賞は、安全性・根治性・手術成績などを総合的に評価し、教育的価値の高い発表に授与されるもの。日頃の研鑽と高い技術力が評価



された結果となりました。さらに、10月28・31日にタイ・バンコクで開催されたアジア・オセアニア地域の肝胆膵外科領域における最大級の国際学

会、第10回アジア肝胆膵外科学会（A-IHPBA 2025）でも、同演題がビデオ発表の部門で第3位を受賞。

八木医長は「今回の受賞は、日々ともに診療に取り組むチームおよびスタッフの支えによるものであり、大変光栄に思います」と述べました。

（済生記者 川上佳代）

〈愛媛〉小田特養緑風荘 大きい栗をほおぼる！

秋風が心地よい10月16日、当



も季節の食材を通じて利用者さんに季節感を感じてもらえるようなイベントを開催したいと思っています。

（済生記者 富岡優衣）

〈愛媛〉西条老健いしづち苑

心を和ませる 動物たちとの触れ合い

10月21日、「動物たちと触れ合えるお店

縁々」の協力のもと、「ふれあい動物園」を実施し、約30人の入所者が参加しました。

当日は、施設にウサギやハムスター、ミニアキャットなどの愛らしい動物たちが遊びに来てくれました。さらに、ヘビやイグアナといった珍しい爬虫類も登場し、会場は大盛り上がり。入所者さんたちは、恐る恐る触



（済生記者 曾我部晴美）



荘の介護職員から「利用者さんに喜んでもらいたい」と大ぶりで立派な栗の差し入れがありました。袋いっぱい栗の目をにした利用者さんから「わあ、すごい」「これは立派な」と驚きと喜びの声があがりました。この栗を使って、10月23日におやつ作りを行いました。

職員がゆでたカグいっぱいの栗を見て、「おいしそうやな」「早く食べたい」と皆さん待ちきれない様子。

その後、職員がゆで栗を半分に割り、スプーンで食べやすいように提供。さらに栗あん作りにも挑戦。「これは本当においしい」「まだまだ欲しい」と食べる手が止まらないほどでした。差し入れをした職員も「持ってきてよかった」と笑顔。今後

〈兵庫〉特養ふじの里
みんなで作る
働きやすい未来予想図

毎年恒例の「5S WEEK」は全職員約210人を対象に、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動を振り返る期間です。今年は「5S万博」と銘打ち、秋祭り（P76参照）とも初コラボし10月14～19日の6日



間開催しました。

今回は部署ごとの改善提案に加え、職場の未来予想図を展示。空飛ぶ公用車、利用者さんの思いが伝わるソフトなど、優しさあふれる提案が見られました。

訪問対応・電話対応・リネン交換の実演審査も行なわれ、最終日の秋祭りではリネン交換審査の決勝で大盛り上がり。3部門のマイスターが今年も誕生し、見事マイスターとなった職員からは「恥ずかしいけど素直にうれしい」と喜びの言葉がありました。

改善提案ナンバーワンと家族が選ぶ未来予想図には「なでしこ特養」、職員が選ぶ未来予想図には「訪問介護」が選ばれました。

（東館介護課 介護課長 池内茂雄）

〈茨城〉水戸済生会総合病院
生澤院長がシンポで発表

10月19日に茨城県医師会主催の茨城医学会総会が開催され、生澤義輔院長がシンポジウム「茨城県における最近の医療情勢について」皆保険制度を維持するために」に参加しました。

た。

生澤院長は発表で、高度急性期を担う公的病院として当院が救命救急体制の強化や多職種によるチーム医療の充実に取り組んでいることを紹介。その結果、施設基準の加算取得等により収益増になった一方、費用も増加



し経営が厳しいこと、皆保険を守るために診療報酬や人財政策の改革が求められることを説明しました。

また、大学病院や地域医師会、保険者の立場からの発表、全体討論での医師の高齢化など直近の課題に対する意見交換、日本医師会・松本吉郎会長による総括意見などもあり、来場者は真剣に聞き入っていました。

（事務部 鈴木圭子）

滋賀県病院

5回目の病院機能評価認定

日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受け、10月3日付けで「機能種別評価項目 3rdG: Ver.3.0」の基準を満たす病院として認定されました。

病院機能評価とは、病院が備えているべき機能について中立・公平な専門調査チームが「患



者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」の視点で評価を行ない、一定の水準を満たしていると認められた場合に認定され



〈北海道〉みどりの里
劇団みどりが施設外公演
サブカルフェスとコラボも

9月7日に行なわれた「済生会小樽くらしたい共生フェス」（本誌2025年11月号P17掲載）で、昨年に引き続き、重症心身障がい児（者）施設の当施設利用者が構成される「劇団みどり」が2度目の施設外公演となるラタル座公演を行ないました。

今回はサブカルチャーイベント「オタフェス」とのコラボが実現。本格的な音響照明やライブ配信を行なうなど、新たな取り組みとなりました。施設内

ます。

当院は2006年1月23日の初回認定以降、5年ごとに更新審査を受け、今回で5回目の認定。責任者の藤井明弘医師は「職員一同日々の業務に真摯に取り組んできた成果。今後より良い医療を提供できるよう努めていきます」と述べました。

また、別日に実施された外傷診療施設機能評価についてもS評価で審査を通過しました。

（済生記者 鶴飼健成）

〈北海道〉小樽老健はまなす
地元小学校の生徒が
キューートな音楽劇を披露

10月29日に日頃から交流のある塩谷小学校の1・2年生4人が、音楽劇を披露してくれました。

子どもたちが入場すると、利用者・入所者合わせて約30人の方が拍手でお出迎え。初めの挨拶をすると「頑張って」と声援が。演技中は、涙ぐむ方や音楽に合わせて手拍子する方、掛け声を出す方などさまざまな様子でしたが、演技が終わると「かわいかった」「ありがとう」と拍手とともに生徒たちに声を掛けていました。

本来は6人で劇を行な



公演後は、見に来てくれた家族やスタッフと交流。「よかったよ」「頑張ったね」などたくさん声をかけられ、利用者さんがとても喜ぶ様子が見られました。

（機能訓練課 言語聴覚士 坂本菜々花）

う予定でしたが、当日は2人の生徒が体調不良でお休み。そのため先生が代役をするというハプニングもありましたが、無事に演じ終えた生徒たちは「学芸会より緊張した」「楽しかった」と皆で話していました。

（済生記者 伝法俊和）

topics



雨にもかかわらず多くの方が訪れ、当院ブースにも100組を超える来場者がありました。当院は「ベジチェックで野菜の摂取量を測定!」「片足起立測定でロコモ度チェック!」の二つを実施。参加者に渡すチェックシートも危うく不足するほどの盛況ぶりでした。次回はさらなる準備をして臨みます。

(済生記者 加藤建志)



〈静岡〉 障害児入所施設 伊豆医療福祉センター
地域の皆さんと共に60年
11月1日に、当施設の一般公開イベント「伊豆医療福祉センターまつり」を開催しました。当施設が創立60周年の節目を迎える今年は、これまで施設を支えてくれた地域の皆さんへの感謝と、これからも共に歩んでいきたいという気持ちを込めて「地域の中にあるセンター60年の歩み」をテーマに設定。観客参加型の太鼓演奏や車椅子ダンスのステージ、福祉車両や車椅子の試乗、クラフト体験など、多様なプログラムを用意しました。当日は普段来院しているなじ

ライトアップで伝える 乳がん予防
ピンクリボンは、乳がんの正

(済生記者 竹味由惟)

みの利用者さんから初めて訪れる地域の方まで約1000人が来場。フォトスポットラリーも実施し、皆さんに施設を隅々まで楽しみながら巡ってもらったことができました。「まつりを通じて親しみを持った」との声も聞かれました。



しい知識と早期発見の重要性を広める世界共通のシンボルです。10月は「ピンクリボン月間」として、全国各地で乳がん啓発イベントが開催されました。当院でも10月10日から13日までの4日間、当院の正面周辺をピンク色にライトアップ。岡山県では当院のほかにも備中国分寺や県庁舎などがピンクに染まり、地域全体で乳がん予防の意識向上が図られました。

また、ピンクリボン月間に合わせ、1階ロビーに乳がんの予防・検診・治療に関する情報コーナーを設け、自己検診の方法



やマンモグラフィ検診の案内などを紹介しました。

今後も地域の皆さんと共に、がんの早期発見・早期治療に向けた取り組みを続けていきます。

(副院長 元木崇之)



〈埼玉〉 川口乳児院
10月26日、生後100日を迎えた子ども2人のお食い初めを行いました。これは「一生涯、食べることに困らないように」という願いを込めた伝統行事で、当施設でも大切に行なっています。ご家族の面会がある場合は、できる限り一緒に行なえるよう面会日を調整しています。

(済生記者 大貫典子)



〈大阪〉 富田林病院
中川皮膚科部長がラジオ番組に出演
当院の皮膚科・中川浩一郎部長が、NHKラジオ第1・関西ラジオワイド「季節の健康」に出演。10月8日は「帯状疱疹とワクチンについて」、22日は「20年間行なってきた皮膚がん検診のまとめ」をテーマに解説しました。

「関西ラジオワイド」は月々金曜日の午後4時5分〜6時に放送されているラジオ番組。「季節の健康」は大阪府医師会が協

力しているコーナーで、同医師会所属の各診療科の医師たちが、身近な健康情報を分かりやすく伝えていきます。

22日の放送には、18日にベストドレッサー賞を受賞した衣装で出演(P95参照)。キャストに服装について聞かれ、学会でのエピソードを披露しました。

また、8日の放送はアロハシャツでスタジオに行ったそうで、中川部長のオシャレと季節の移り変わりの早さの話で盛り上がりつつありました。

(総務課課長補佐 小谷知広)

〈東京〉 向島病院

大盛況のまつりに出展!
墨田区社会福祉協議会などが主催する「第39回すみだボランティアまつり」が10月26日に開催され、当院もブース出展しました。このまつりは、墨田区で活動するさまざまなボランティア団体を知ることができ、体験型イベントです。

会場は東京スカイツリーのふもとにある押上小学校の校庭・体育館。社協会長や墨田区長のあいさつ後に30ほどのブースがオープンしました。あいにくの

〈新潟〉特養康和園

寄付品の車椅子は
転倒防止・軽減機能付き

11月12日、信越郵便局長協会から車椅子2台を寄贈いただきました。同協会は社会貢献活動として福祉施設等への支援を実施しており、今回の車椅子寄贈もその一環です。



寄贈していただいた車椅子は、使用者が立ち上がる時自動的にブレーキが作動し、後方への転倒事故を防止・軽減する機能を備えています。実際にデモンストレーションを行なった際には、その機能に驚きの声が上がっていました。

今後は、この車椅子を入居者の皆さんの安全で快適な生活のために活用していきます。地域

の皆さんから寄せられる温かいご支援に、改めて感謝したいと思っています。ありがとうございます。

（済生記者 山田裕樹）

〈愛媛〉松山病院

来る災害に備え……
防災訓練を繰り返す

11月14日、今年度5回目の災害訓練として「災害記録」と「トランシーバー訓練」を実施し、21人が参加しました。

当院では災害対応力の向上と意識啓発を目的に、年7回の災害訓練を実施。この訓練回数は、正規職員全員が2年に1回参加



する想定で設定しています。内容も火災・地震訓練に加え、トリアージ、災害時トイレ対応、避難所運営ゲームなど、実践的かつ参加型のプログラムになっています。また、訓練参加を超過勤務扱いとすることで、業務の一環として無理なく参加できる環境も整えました。

当院は、突然起きる災害に対して、常に意識を向けられる体制づくりを最重要ととらえています。そのためには訓練を「繰り返し続けること」がとても大切で、今後もこの取り組みを続けていきます。

（防火・防災管理委員会

中村匡秀）

〈神奈川〉横浜市南部病院

駅前の地域イベントで
フレイル予防

11月7日、駅前の商業施設「港南台パルク」で開催された「港南台イロドリフェスタ」に出展しました。同イベントは港南台エリアを活性化するための開催されています。

当日は当院の眼科医師と皮膚・排泄ケア認定看護師、歯科衛生士、管理栄養士が講師として参加し、フレイル予防のミニ



医療講座と当院の歴史に関するパネル展示を実施。延べ97人が来場しました。

フレイル予防に絞った医療講座が珍しかったのか、チラシを

配って呼び込む職員に声をかける方が多かったように見受けられました。

皮膚・排泄ケア認定看護師・

嶋村まどかさんの講座の後、皮膚保湿剤のテストを体験する時間では、女性を中心に皮膚保湿剤に関する質問が多く挙がりました。今回の講座が健康について振り返る機会になることを期待しています。

（済生記者 南川茉悠）

〈岩手〉北上済生会病院
地元警察署と連携し
地域の安全意識向上へ

10月9日、当院の正面玄関付近で北上警察署交通課の警察官3人による交通安全呼びかけ活動が行なわれました。

岩手県内では交通事故が相次ぎ、今年の死者数はすでに昨年を上回る深刻な状況となっており、今年3回目となる「交

通死亡事故多発注意報」が発表されています。

当院は地域の安全を守る取り組みとしてこの活動に協力。当日は、来院者や職員約100人に交通安全の呼びかけや反射材の配布が行なわれ、患者さんやその家族からは「子どもが巡回さんを身近に感じるいい機会になった」「歩行者・運転者、両方の立場で考えるきっかけになった」「とても良い取り組み。ぜひ継続してほしい」など多くの反響が寄せられ、地域の安全意識向上につながる時間となりました。

（済生記者 掛川千恵子）

〈滋賀〉老健ケアポート栗東
家族同士で未来を考える

年に一度の家族会を11月15日に開催し、利用者家族16人が参加しました。

前半は地域包括支援センターから講師を招き、「生き方（逝き方）を見つめましょう 自分らしく最後まで」をテーマにACPについて講演していた「未来ノート」を使って記入する時間もあり、参加者も我



が事として考えることができたようです。「話したいとは思っているけどきっかけがなかった。これを機に親と話してみようと思う」「家族全員分の未来ノートを欲しい」などの感想がありました。

（作業療法士 宮武 恵）

東神奈川リハビリ

テーション病院

区民まつりにブース出店
福祉用具の紹介・体験

10月12日の令和7年度神奈川区民まつりに当院がブース出店し、作業療法士2人、事務員3人の計5人がスタッフとして参加しました。

前年度に引き続き、市民の健康増進・予防啓発ブースで「脳卒中片マヒの方が日常生活で使える福祉用具の紹介・体験」をテーマに出店。杖や食事する



際の自助具などを体験してもらいました。来場者は39人と多くなかったものの、障害者や高齢者からの福祉用具の困りごとや相談に対し、私たちの知識と経験を生かして貢献できたと感じています。

参加した職員からは「地域住民との触れ合いの中で、他施設の出店を紹介するなどの連携もでき、大変有意義だった」といった声があり、来年も継続して参加したいという意見が多く挙がりました。

(済生記者 濱崎啓祐)

〈佐賀〉特養ケアハウス
めずら荘

心まで洗われる高所清掃

株式会社クラフティアの社会



当日はクラフティアのボランティアスタッフ28人が訪れ、同社の持つ高所作業などのノウハウを生かした専門的な清掃を開始。普段職員では届かないような場所の窓清掃を行なってもらいました。彼らの専門的なスキルと地域への思いが一体となり、晴れやかな秋の日差しを室内にたっぷり取り入れることができました。



施設内は一層明るく清潔感あふれる空間となり、利用者の皆さん

日本脈管学会学術総会で
優秀賞を受賞

〈神奈川〉横浜市東部病院

10月16・17日、東京都・都市センターホテルで行なわれた第66回日本脈管学会学術総会で、当院心臓血管外科の飯田泰功部長が優秀賞を受賞しました。

演題は「ステントグラフト内を流れる血流によって生じる動的な復元弾性力の測定とdSINEへの影響」。本研究では、ステントグラフト内を流れる血流が与える力を精密に測定し、留置後の合併症への影響を調査。その結果、血圧、血流によって生じるこの力が、ステントグラフトを不安定化させる重要な要因であることが示されました。本研究は、より長持ちし、合併症の少

優秀賞

JCAA-4	飯田 泰功	恩賜財団 東部病院	済生会横浜市 心臓血管外科	ステントグラフト内を流れる血流によって生じる動的な復元弾性力の測定とdSINEへの影響
JCAA-1	清水 港太	東北大学	総合外科	腹部大動脈瘤病変部における口腔内検出と微生物叢の包括的解析



ない次世代ステントグラフトの設計指針となるものとして高く評価されました。

飯田部長は「日常診療の疑問を医工連携で定量化、具現化できたことは大きな喜び」と述べ、共に研究に携わった桐蔭横浜大学医工学部・佐藤敏夫教授のグループをはじめ、関係各位に感謝を伝えました。

(済生記者 荒木愛美)

〈広島〉特養たかね荘こやうら
3施設合同で敬老会

9月11日、特養たかね荘・特養たかね荘こやうら・ケアハウス安芸の3施設合同の敬老会を、当施設3階の地域交流ホールで開催しました。

各施設から計約15人の入居者さんが参加。吉田隆行坂町長、主枝幸子坂町社会福祉協議会会長の祝辞の後、坂町から99歳・88歳・77歳の方々に、坂町社協から95歳・85歳の方々にそれぞれお祝いの品が贈呈されました。参加者を代表して、ケアハウス安芸の入居者・松岡輝充さんが「隣に病院とスーパーがある



クリニカルパス大会で
多職種連携

10月10日、当院で「第1回クリニカルパス大会」を開催しました。昨年度からクリニカルパス（以下、パス）が本格稼働したことに伴い、職員の知識向上

〈神奈川〉横浜若草病院

(済生記者 佐藤 聡)

素晴らしい環境に住まわせていただき、大変ありがたく思っている。これからも健康に留意し長生きしていきたい」と感謝の意を述べました。



と医療の質改善を目的に企画したものです。

当日は医師、看護師をはじめ院内の多職種合わせて60人が参加しました。テーマは「パスの役割と期待される効果」で、パス委員会メンバーが登壇し「基本的な包括と、出来高の考え方」(医事課)、「パスと医療の質」(看護部)、「前立腺生検パス」(診療部)の3演題を発表。それぞれの立場でパスの活用について報告しました。

参加者アンケートでは69%が「満足」、80%が「次回も参加したい」と回答し、関心の高さがうかがえました。

(看護部 看護師 三原 忍)





10月27～31日の5日間、沖縄県の社会医療法人「友愛会」法人事務局の方を当院に迎え、人事交流を実施しました。

人事交流で他病院の取り組みや考えに触れる

福井県済生会病院

(済生記者 寺坂幸雄)

なすまたですが、実物に触れたことがない職員が大半。福祉施設や教育機関での配備率が低く、使い方も難しいため、むしろ椅子・机など施設内にある備品の方が武器として有効だという話に納得しました。また、多数の人がいる施設では「侵入者に対抗するよりまず逃げる・距離を取る」という原則を実行することの難しさについて考えさせられました。



健診センターの魅力を地域へ発信

(神奈川) 湘南平塚病院

10月18日、平塚商工会議所主催の「ひらか産業FES」が平塚市見附台公園で開催され、当院は企業紹介ブースとして初出展しました。例年約1万人が訪れる盛況な催しです。ブースではA3用紙16枚分の手作り大型パネルを展示し、健診センターの魅力を分かりやすく発信。親子連れの来場者も多く、子どもにはスーパードールやシールなどのくじをプレゼントし、その間に保護者の方へパンフレット配布や人間ドックの案内を行いました。予想以上の反響によりパンフレットが足りなくなり、追加補充を行なうハプニングも。約200人がブースを訪れ、「人間ドックが気になっていた。後日連絡します」など、受診希望につながる反応もありました。スタッフ同士や他事業所との交流も盛んで、地域のつながりを感じられる一日となりました。

(済生記者 川崎菜美)

学生に向けたBLS講座

(福岡) 二日市病院

10月9日に筑紫女学院大学で「BLS（二次救命措置）講座」を開催しました。当院の看護師1人、臨床検査技師1人が講師を務め、学生32人が参加しました。講座では、人形を使用して胸骨圧迫とAEDの使い方を実際に体験。胸骨圧迫で推奨される5センチ以上の深さで圧迫をすることが難しい学生もいましたが、全員が楽しみながら学び、積極的に参加していました。参加した学生からは「人形だ



利用者さんを守るため

(埼玉) ワークステーション
みのり

福祉施設への侵入者による被害を度々耳にします。その脅威から利用者さんと職員を守るため、10月28日に川口市役所防犯対策課の協力のもと、職員全員参加で防犯研修を開催しました。当日は市役所出向中の現職警察官による座学講義で防犯対策に関する基本知識、実践訓練でさまざまな使用方法など、侵入者への効果的な対応や注意点について具体的に学ぶことができました。防犯グッズとしてはメジャー



いう場所があると安心するね」と声をかけていただく場面もあり、その言葉に元気をいただきました。また、忙しい中でもスタッフ同士が自然に声を掛け合いながら進められたことはとても心強く、病院として地域と向き合う「チーム」の温かさを実感しました。来場した皆さんとの触れ合いを通して、地域とのつながりの大切さを改めて感じる、貴重で充実した2日間となりました。

(広報・情報課 奥泉幸亮)

イベントで触れる地域のあたたかさ

(群馬) 前橋病院

(済生記者 橋本来林)

11月8・9日に東公民館文化祭が開催され、2日間で300人を超える方が来場しました。当院は今年も健康チェックブースを出展し、血圧測定、血管年齢測定、ペジチェックを中心に実施しました。筆者は今回初めて参加。当院ブースにも多くの方が訪れ、「こ

〈埼玉〉川口総合病院

訓練で災害時の役割と連携の大切さを実感

10月22日に災害対策訓練を行い、約100人が参加しました。今年はトリアージ訓練とイーバック+チェア（階段避難車）訓練を実施しました。

トリアージ訓練には当院附属の川口看護専門学校が模擬患者として参加。学生からは「看護師さんの質問が明確で答えやすく、詳しく聞いてくれたことで安心感があった」との感想が寄せられました。

令和6年能登半島地震でDMATの現地医療活動に従事した薬剤師・佐伯文啓さんは



「定期的に災害に対する意識を病院全体で高めておくことが大切。特にチームワークが重要」と語ります。

また、災害対策委員会副委員長で統括責任者の石戸保典医師は「患者さんの搬送や治療の流れを確認できた。今後も水害など多様な災害にも対応できるように備えていきたい」と話しました。

（済生記者 原 衣里奈）

〈愛媛〉今治病院

医療連携交流会に103人

10月3日、今治国際ホテルで地域の医療機関・行政機関などの関係者を対象に、令和7年度1回目の医療連携交流会を開催しました。この会は、医療連携を通じて地域の医療提供体制の維持・確保、医療の質向上を図ることが目的です。

当日は当院の八木専・内視鏡センター長が「当院における内視鏡センターの現状と地域連携の実践」、井口利仁副院長と谷悠真外科医長が「消化器・一般外科のご紹介」顔の見える連携を目指して」をテーマに講演。市内の医療機関・行政機関を中



心に院外の参加者53人、当院からは医師16人を含め50人の合計103人が一堂に会し、大変有意義な交流会となりました。このような顔の見える連携の機会を通して、地域の医療連携の強化につながったと思います。

（済生記者 村上景助）

香川県済生会病院

済生会フェアに1000人

10月5日、当院と特養などしこ香川が共同で第7回済生会フェアを開催し、約1000人が来場しました。

テーマは「未来をつくる子どもたちとSDGs」自分たちでできること」。院内プー



スではSDGsに関する展示をはじめ、循環器内科部長の江口智也医師と糖尿病・内分泌代謝内科医長の吉岡佑紀医師による二つの健康講座を実施。また、毎年子どもたちに人気の腹腔鏡手術体験や済生丸VR体験、機械でお菓子を分包する薬剤師体験、デコレーション歯ブラシの作成など、多彩な企画が用意されました。

駐車場ブースでも心肺蘇生&AED体験や、ことのでんミニ



電車乗車体験など盛りだくさん。高松市立多肥小学校金管バンド部の演奏では子どもたちが真剣に楽器と向き合い、心を一つにして奏でる音はとても力強く感動的でした。

（総務経理課 後藤梨花）



〈山口〉豊浦病院

同じ船の仲間として

9月19日、シーモールパレスで互助会主催の「新入職員歓迎ビアパーティー」を開催し、160人が参加しました。今年度は多職種40人の新しい仲間が加わっています。



オブ・カリビアンテーマソングが流れ、司会の小松副院長も宇宙海賊のコスプレでした！パイレーツは同じ目標に向かって仲間を思いやり協力しながら、それぞれの役割を実行して進んでいきます。今回のビアパーティーで職員同士のコミュニケーションが深まり、より働きやすい病院になったと感じています。

（済生記者 西田千鶴）



〈兵庫〉児童発達支援事業所 なないろ

保護者同士の温かな交流

9月12日、当施設で保護者座談会を開催し、12人が参加しました。当日は療育中の様子の動画を鑑賞し、保護者と職員が「丸となってリレー」形式で絵を伝えていく「お絵かきリレー」子どもの得意なことを発表し合う意見交換を行いました。

お絵かきリレーでは、それぞれが描いた絵を見て笑いが起こるなど、終始和やかな雰囲気になりました。



意見交換では、自身の子どもの新たな一面に気付くきっかけにもなり、保護者同士の交流も深まりました。

終了後は、参加者から「先生方が愛情を持って子どもたちに接してくださっ

ていることが伝わり、うれしかった」「境遇が似ている保護者の方と関わることでできてよかった」などの温かい感想が寄せられました。

（児童指導員 小田和晃）

〈石川〉こども園アイリス

地元鉄道イベントで 歌と踊りを披露

10月18日に金沢駅構内で開催された「IR いしかわ鉄道フエスタ2025」のオープニングセレモニーで、当園の4歳児11人・5歳児9人・保育者総勢26人が歌や踊りを披露しました。

演目は季節の歌の「きのこ」「やきいもグーチーパー」、普段から歌っている「ともだちさんか」の3曲。皆で心を一つに、大きな声で歌いました。「やきいもグーチーパー」の最後では観客もじゃんけんに参加して盛り上がりました。

続いて、年長児による「ソーラン節」。お揃いの法被姿で「ソーランソーラン！」と大きな掛け声を会場に響かせ、体全体を使って元気いっぱい踊り、かっこいい決めポーズで締めくく



りました。

たくさんのお客に見守られ、少し緊張した様子の子どもたちでしたが、日頃の成果を発揮し楽しんでいました。

（保育教諭 水邊亜衣）

〈栃木〉宇都宮病院

呼吸器疾患連携の会を開催

9月18日、当院研修室で「済生会呼吸器疾患連携の会」地域で支える呼吸器疾患のリハビリと病診連携」をハイブリッド形式で開催しました。

当日は医師・看護師・リハビリ職など計68人（会場46人・

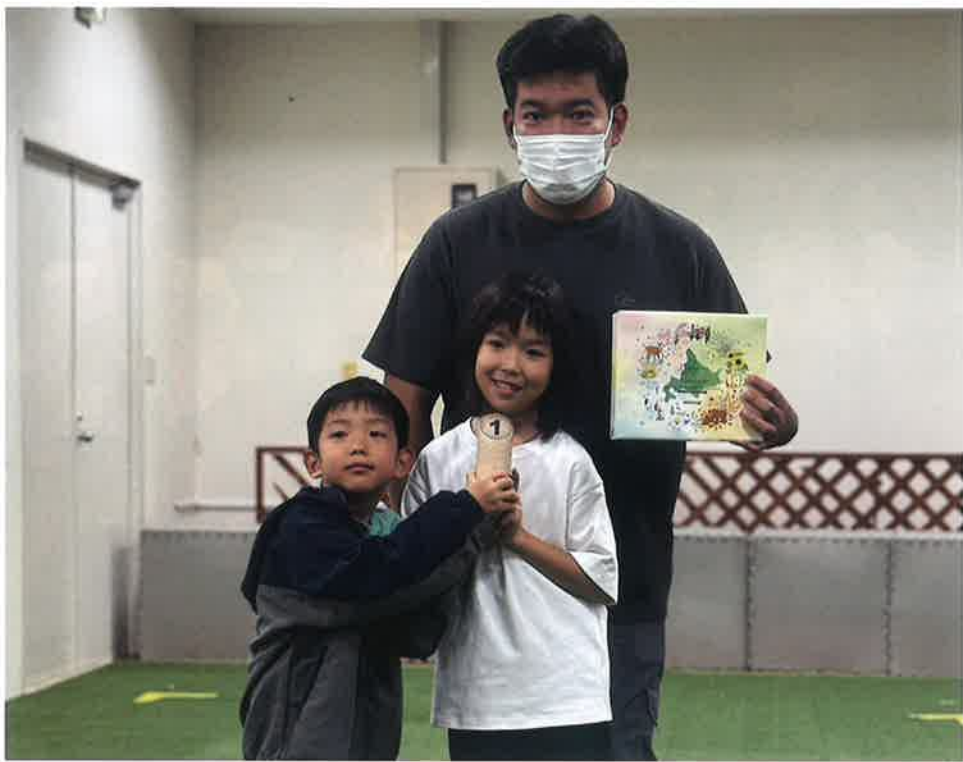


WEB22人）が参加しました。座長は当院呼吸内科の仲地一郎主任診療科長が務め、講演Ⅰではリハビリテーション技術科の坂本慶子理学療法士が「当院での呼吸リハビリテーションと連携」をテーマに発表。講演Ⅱでは呼吸器内科の岡森慧医師が「呼吸器疾患の病診連携と当院での間質性肺疾患診療」について話しました。クロージングリマックスは湯川内科クリニックの湯川龍雄院長が担当しました。アンケートでは9割以上が「満足」と回答。「今後も参加したい」との回答も9割以上を占めるなど、非常に高い評価を得ました。

（地域連携課 川田綾香）

病院認定クラブがモルック大会で初優勝！

10月11日、近隣の大型商業施設・ウイングベイ小樽2番街2階の済生会スポーツスクエアで「済生会モルックトーナメント」が開催。当院の職員福利厚生会



の認定クラブとして今年発足した「ゆるスポ倶楽部」が参加し、初優勝を飾りました。

大会には10チームが出場。5組ずつのリーグ戦を経て、リーグ1位同士の決勝を行ないました。ゆるスポ倶楽部は理学療法課の山平健人さんと、娘の彩友さんがペアで参戦。彩友さんの弟・煌大くんの声援を受け、山平さん・彩友さんのナイスショット、部長のナイス（？）アドバイスが決まり、見事優勝をつかみました。

現在、倶楽部には10人の職員



長崎病院

中学生が職場体験 医療の仕事に肌で実感

10月23・24日の2日間、長崎東中学校から2年生4人の職場体験学習を受け入れました。

看護部の講義では病院の仕事組みや感染予防、医療安全について学びました。その後の手術室の見学では手術前の手洗いを体験して手術着を身にまとい、気



分はドクターX!?

病棟では実際の看護の様子を見学し、放射線室ではMRIの強力な磁場をハサミを使って体験。紐でつなげたハサミを遠い所で手を離すと同時にMRIにくっつくのを見てとても驚く様子が印象的でした。最後は託児所で保育補助を体験。小さな子どもたちと遊ぶ中で、思わず笑顔がこぼれるひとときに、生徒たちも「楽しかった!」と笑顔を見せてくれました。

この経験が、生徒たちの将来の仕事選びのヒントとなることを期待します。

（総務課 安田桃子）



topics

色とりどりの千羽鶴

〈大阪〉茨木病院

9月12日、〈大阪〉春日丘荘
デイサービスセンターの管理者
兼生活相談員と利用者さん代表
が、当院に千羽鶴を届けてくだ
さいました。70〜100歳の
利用者さんが15センチ四方の折
り紙で「一人でも多くの患者さ



こうした地域の声を聞き、学
生たちからは「岡山市におか
け応援隊」の事業を周知すべし
「災害対策のためにはまず地域
住民のつながりを深める活動
が必要」という意見がありまし
た。

（教務主任 三宅和代）

心も体もリフレッシュ！

静岡医療福祉センター成人部

10月22日、年に
一度のあおば祭
りを開催し、48人が
参加しました。
今年の祭りは内
容が盛りだくさん
まず、就労継続支
援B型事業所「ブ
レジュール」のハン
ドマッサージを体
験。すぐに予約が
いっぱいになるほどの大人気で
心地よい香りのオイルでマッサ
ージを受け、気持ち良さそう
な表情が見られました。
午後には芸能披露の部が行
なわれました。1組目はパ
フォーマーとして活動する
MARSHIEさんによるギタ
ー演奏。素晴らしい歌とギター
の演奏に皆さん感動していまし
た。
続いて登場した「ハウオウク
レ&フラ」の皆さんの心地よ
い音楽と踊りに、利用者さんも
楽器を持って一緒に盛り上がっ
ていました。
利用者さんの素敵な表情を見
られて、職員も大満足！ 来年
はどんな祭りになるか早くも楽
しみです。

（済生記者 奥川詩織）



〈和歌山〉有田病院 誤嚥性肺炎予防の勉強会

8月29日と10月21日に地域ケ
ア勉強会を当院で開催し、両日
合わせ30人以上が参加しました。
地域住民の健康の維持・増進
のため、医療・看護の知識や技
術を共有し情報交換ができる場
をつくり、院内外での多職種連
携を推進することを目的とした
取り組みで、平成24年にスタ
ート。講師は有田医療福祉セン
ターの各職種が務めています。
今年度のテーマは「誤嚥性肺
炎予防」。当院の木村実子管理
栄養士が「誤嚥性肺炎と食事」
困っていること悩んでいること
一緒に話しませんか、杉山
智子摂食・嚥下障害看護認定看

護師が「簡単に作れる嚥下食と
調理について」と題して講義を
行ないました。

今後も地域包括ケア連携士と
して地域ニーズに沿った活動を
展開し、地域の皆さんの健康に
つながる機会を設けていきます。

（済生記者 大向伸正）

岡山済生会看護専門学校 地域の暮らしを支える 看護を考える

6月30日〜7月3日、本校の
1年生77人が授業の一環で、岡
山済生会総合病院と本校周辺の
三つの中学校区でフィールドワ
ークを行いました。
学生たちは事前調査の後、現
地に赴き地域の方々にインタビ
ューを実施。「近所にスーパ
ーがなく、免許を返納したら買
物に行けないので、タンパク質
がとりづらい」「商店街は高齢
化が進み活気がなくなってきた
いる。若い人がいないので災害
時は心配」「通勤通学の自転車
が多くベビーカーを押して歩く
のが怖い」「病気になるたら済
生会病院を利用するので、病院
を守り続けてほしい」などさま
ざまな意見がありました。

〈島根〉老健高砂ケアセンター 測定結果に一喜一憂

11月16日、江津市浅利地区が
主催する健康まつりに当施設か
ら筆者と横山健太総務課長が参
加し、骨密度測定と血管年齢測
定のブースを担当しました。

午前5時の実施でしたが、約
50人の地域
住民が来場。
そのうち約
40数人に測
定を受けて
もらい、60
代から90代
まで幅広い
年齢層の方
々が測定
の結果に一
喜一憂して
いました。

（済生記者 木下 英）



〈滋賀〉 守山市民病院
乳がん早期発見につながる
ピンクリボンツリー



10月の「乳がん月間」に合わせ、乳がん検診の受診や乳腺・アウエアネス（乳房を意識する生活習慣）の促進を呼びかける「ピンクリボンツリー」を病院ロビーに設置しました。クリスマスツリーを活用したこのツリーには、放射線技術科のスタッフが手作りしたピンクリボンが飾られ、かわいらしい見た目が来院者の目を引きました。傍らに手軽に持ち帰れるポケットティッシュ付きの啓発チラシを設置。ロビーのデジタルサイネージでは、乳がんに関する啓発動画も流しました。チラシは準備してい

た100枚がなくなり、多くの方に関心を持っていただけたようです。院内でも「これまでにない新しい取り組みでよかった」「ツリーがかわいい」と好評でした。
一人でも多くの方の乳がん早期発見につながるよう、今後も啓発活動を続けていきたい思います。

（済生記者 中嶋元香）

〈大阪〉 野江病院
多職種で学ぶ緩和ケア



9月28日、外部ファシリテーター（講師）や緩和ケアチームスタッフの協力で毎年恒例の緩和ケア研修会を開催しました。13回目を迎えたこの研修会

は、がん等の診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を修得することを目的として、がん診療連携拠点病院で行なわれるものです。

今回は院内外の医師・看護師・栄養士・社会福祉士など多職種27人が参加。ロールプレイやグループワークを中心に、緩和ケアについて徹底的に学びました。長時間の研修ではありましたが、参加者からは「かなり勉強になった」「楽しく学ぶことができた」「いろんな職種と学べて良かった」といった意見がありました。

（がん相談支援センター 副看護部長 渡邊美貴）

〈大分〉 日田病院
仕事をする喜びを
子どもたちへ伝える

10月16日、日田市内の中学校で「夢授業」が行なわれました。これは子どもたちがさまざまな職業人と出会い、それぞれの生き方や思いに触れることができるプログラムで、すべてボランティアにより運営されています。

射器に触れる体験や検脈を体験してもらいました。
皆熱心に話を聞いてくれ、後日、感謝を綴った手紙が届き温かい気持ちになりました。
職業人として仕事にどう向き合うか、筆者自身も原点を振り



この日は2年生163人が参加。消防士や家具製造、僧侶など多種多様な27人の職業人が集まり、当院からは医師と看護師筆名の2人が参加しました。生徒たちに看護師の仕事内容やうれしかったこと、AI技術の発達により看護師の仕事はどう変化するかなどを話し、注

〈神奈川〉 横浜市東部病院
多職種がチームとなって
糖尿病患者と共に歩む

8月23日、ステーションコンファレンス川崎で全国済生会糖尿病研究会主催の「第31回全国済生会糖尿病セミナー」が開催され、当院の一城貴政糖尿病・内分泌センター長が世話人を務めました。

テーマは「Walk Together Talk Together」糖尿病と共に生きる人と共に歩む」で、



全国の済生会病院および会場近隣の医療機関に在籍する医療従事者130人が参加。基調講演、特別講演、ランチョンセミナー2題、糖尿病地域連携に関する多職種シンポジウム、CGM活用の質を高めるワークショップ、一般演題22題と充実した内容で、盛況のうちに幕を閉じました。

当セミナーでの糖尿病治療における最新情報の共有や意見交換が、全国の臨床の場で活用され、患者さんへの貢献につながることを祈念します。
（人材開発支援室 室長 西川泰弘）

〈埼玉〉 川口総合病院
安全運転を多職種で学ぶ

10月20日、当院では初めての交通安全研修を実施しました。櫻井雅彦安全担当部長と安全運転管理者の筆者が主催し、当日は車を日常的に使う職員21人が参加しました。

研修は三部構成で、第一部では、埼玉県警察の横断歩道における歩行者優先の取り組み「KEEP38プロジェクト」、あり運転防止や被害時の対処法などについて学習。第二部では、



JAF教育動画を聞いた危険予知トレーニングを実施しました。第三部では、川口警察署交通課・鈴木高一警部補を講師に招き、病院車両を使った死角の確認や運行前点検の重要性を体験的に学びました。

参加者からは「想像以上に死角が多く、身が引き締まった」「日々の点検の大切さを改めて実感した」との声が寄せられ、安全運転への意識が一層高まりました。

（人事・総務課 本橋和宏）

〈栃木〉宇都宮病院
夢に向かってもう一歩！

9月20日、市民公開講座「夢に向かってもう一歩！」を開催しました。アジア初の女性宇宙飛行士で、かつて当院の心臓血管外科に勤務した向井千秋さんを講師に迎え、小学生から高齢者まで幅広い世代の方約400人が来場しました。

講演では、宇宙飛行士としての挑戦や医師としての歩みを通して、「夢を描き、努力することの大切さ」を力強く伝えてい



いただきました。向井さんの語る数々のエピソードに、会場の皆さんは引き込まれるように耳を傾けていました。

終演後の質問タイムでは、時間内に収まりきれないほど多くの人が手を挙げ、向井さんならではの温かくユーモアのある回答に会場は大いに盛り上がりました。閉会後も写真撮影を希望する長蛇の列ができましたが、最後の一人まで笑顔で丁寧に対応していただきました。

（済生記者 川原彩花）

〈愛媛〉西条病院
永年勤続者16人を表彰

10月23日、令和7年度永年勤続者16人の表彰と記念品贈呈式



を行ないました。来々2月の済生会学会総会で表彰を受けますが、当院では毎年10月に院内で表彰式を実施しています。今年度の対象者は30年表彰1人、20年表彰6人、10年表彰9人です。石井博院長からは日頃の勤務



への労いと感謝の祝辞が送られ、今後の活躍への期待を込めて表彰者一人ひとりに記念品が渡されました。

表彰者からは、表彰へのお礼とともに「今後もさまざまな変化に対応できるように、より知見を広める必要がある。共に働く仲間との関わりを大切に、思いやりのある看護師でありたい」と今後も地域医療を担う者としての意気込みが述べられ、気の引き締まる表彰式となりました。（済生記者 山之内由美）

〈神奈川〉横浜金沢医療福祉センター

済生会クイズに挑戦！

10月18日に横浜市金沢区「海の公園」で開催された地元行政主催のイベント、「金沢いきいきフェスタ」に同区内の済生会7機関合同で出展しました。合同出展は今年で3回目です。

当日は子ども連れの家族から高齢夫婦まで、600人近くの方が当ブースに来場しました。「ぜひ、済生会について知ってもらいたい！」と思い、済生会創立の歴史や、現在の総裁についてをA1サイズのポスター



にまとめて、それを見ながら3択クイズに答える参加型のイベントを実施。クイズに正解した方には済生会ハンカチをプレゼントしました。

（済生記者 長澤伸哉）

〈鳥取〉境港総合病院
除草ボランティアですっきり

10月18日、境港市シルバー人材センターと境港市ことぶきクラブ連合会の皆さんによって、当院敷地内の除草ボランティア活動が行なわれ、今年で4回目を迎えました。

ことぶきクラブ連合会・川

口昭一会長の挨拶の後、総勢62人のボランティアの皆さんによってきれいに除草され、2時間弱の作業で集めた雑草・枯葉の重量は190キログラムにもなりました。



す。境港市シルバー人材センターの皆さん、境港市ことぶきクラブ連合会の皆さん、ありがとうございました。

（済生記者 亀尾美子）

topics



〈岡山〉養護老人ホーム玉松園 6年ぶりの玉松園祭

10月18日に、玉松園祭を6年ぶりに開催しました。当日は入所者さん47人、ご家族27人、近隣住民約75人が参加。たこ焼き・フランクフルト・アイスクリームを屋台で提供し、バザーでは提供していた品々を100〜300円の価格で販売しました。催しとして、カラオケコーナーと、紙飛行機をその場で折り遠くに置いた箱の中に飛ばして入れるゲームを行いました。わずかな時間ではありますが、入所者の皆さんはご家族と一緒に屋台の食べ物を楽しみ、普段できないお話をするといった時間を共有しました。

地域の方々には施設の中の様子を知っていただく機会になりました。「久しぶりにこのお祭りに参加できてよかった」といった声が聞かれ、来年で降も来

しいものにできるよう頑張りたいと思います。

(事務員 岸本淳也)

患者さんや来院する方の利便性向上を目的に、11月4日から院内で無料Wi-Fiサービスを提供を開始しました。

運用開始までは工事期間を含めて約3カ月。施設管理課・医事管理課・経営管理課・看護部がタッグを組んで、スピーディーに準備を進めることができました。

準備の中心的役割を担った経営管理課の湯山哲也さんは「ご家族との連絡や情報収集がよりスムーズになり、待ち時間や入院生活を快適に過ごしていただけることと思います。今後



〈山口〉下関総合病院 院内無料Wi-Fi導入

9〜10月の4日間、キャリア支援室主催の職種横断研修（キャリアコンサルティング研修）が開催され、合計70人が参加しました。この研修は、主体的なキャリア形成に取り組むことで、能力開発やモチベーション向上



今回の主任と係長が対象でしたが、今後もさまざまな対象に向けて開催する予定です。

(経営企画課 二階堂潤江)

厚生労働省のキャリア形成・リスクリング推進事業を活用したプログラムで、キャリア形成を考える必要性や、自分を知ること、キャリアの積み上げ方などについて、キャリアコンサルタントが講義しました。

参加者からは「これまでのキャリアを振り返り、ジョブカードを記入することで、自分の考えを整理する良い機会になった」といった感想が寄せられました。



革新性を評価され在宅ケア学会で大賞受賞

〈茨城〉神栖済生会病院

9月13日に開催された第30回日本在宅ケア学会学術集会において、筑波大学地域医療教育学講師で当院非常勤の阪本直人医師、同大学神栖地域医療教育センター助教で当院内科主任部長の濱田修平医師が「第1回在宅ケアイノベーション大賞」を受賞しました。

演題は「本来の地域包括ケア（救急・在宅から暮らしの場まで、住民・コミュニティナースとの協働）。長年行なわれてきた筑波大学の地域医療実習と併せて、地域の医療連携体制に介入し、職種や施設を超えて医療情報を共有するICTシステム導入など、多様な試みの実施と活動の革新性が評価されました。

阪本医師は「約17年前に始まった活動が、住民や地元企業、行政との協力、信頼関係の構築、そして医療体制の強化につながったことをうれしく思います」とコメントを寄せました。

(済生記者 江口裕紀)

がん放射線治療の今を知る

〈鹿児島〉川内病院

11月1日、当院管理棟4階のなでしこホールで市民公開講座を開催しました。会場は満席となり、補助席を用意して110人が受講。がん治療への関心の高さを感じる盛況ぶりでした。

当日は、がん放射線療法看護認定看護師・神村陽子さんによる「がんの放射線治療ってこわいの？」知って安心するために、放射線科部長・小野原信



一さんによる「がん放射線治療」放射線治療機器Radixactの紹介」の2題を通して、放射線治療を分かりやすく解説しました。

講演後には、昨年更新した放射線治療機器「Radixact」の見学も実施し、参加者からは「治療を身近に感じられた」との声が寄せられました。

本講座が、がん治療を正しく理解し安心につながる機会となれば幸いです。

(医療連携室 課長補佐 野間口男志)



〈山形〉特養愛日荘 東沢まつり・文化祭で 作品展と健康相談

10月19日、東沢コミュニティセンターで東沢まつり・文化祭が行なわれ、約1500人が来場しました。当施設は利用者・職員の作品展と、済生会愛らんど地域包括支援センターによる健康相談コーナーで参加しま



した。

余暇活動や俳句クラブで作った作品、毎年リメイクしているかかしなど約40点を展示しました。作品を配置してみるとなかなか賑やかな出来栄です。

健康相談コーナーでは、血管年齢・血圧測定と健康相談を実施し、約130人が訪れました。血圧について気にしていた方が多く、地域住民の方々の健康増進に努めました。

また、当日は子ども神輿が駐車場を練り歩き、見に来た利用者さんは「わっしょい！ わっしょい！」と掛け声を出して楽しんでいました。子どもたちの元気な様子に利用者さんの笑顔がこぼれる一面が見られました。

（済生記者 高橋 睦）



〈福岡〉二日市病院 九州最古の寺院で講演

11月2日、当院が所在する筑紫野市の武蔵寺で開かれた第58回写経埋納法会で、壁村哲平院長が記念講演を行いました。武蔵寺は飛鳥時代に建立されたとも伝えられる九州最古の仏蹟で、当院1階エスカレーター横の壁画パネルは「武蔵寺縁起絵図」をもとに作成されています。武蔵寺西側の堂ノ山には平安時代の経塚があり、写経埋納法会は毎月開催の写経会で書かれた写経をこの経塚に埋納する歴史ある行事です。



講演のテーマは「未来の自分

への投資」今日から始める健康習慣。壁村院長は健康に過ごすための食生活をはじめとしたフレイル予防について話し、25人ほどの参加者が熱心に聴き入っていました。

仏教の教えと済生会の理念には相通じる部分も多く、地域に根差した病院として活動していくことの意義を改めて感じました。（企画情報課長 木山浩平）

〈富山〉幼保連携型認定 こども園でしこ保育園 体いっぱい秋を感じて

11月7日、年中児・年長児合計50人で秋の遠足に出かけました。目的地は富山市内の東中野公園。事前に電車に乗る時刻や降車駅、乗車時の約束やマナーを調べ、当日は「9時32分出発だよ」「降りる駅は西中野だよ」とワクワクとした表情で子どもたち同士で確認していました。

公園に到着後は、網で虫を捕まえたり、木の実や落ち葉を拾ったり、芝生の山から転がったり……体いっぱい秋を感じ、思いきり楽しめました。そして待ちに待ったお弁当の

「トンボ捕まえたことママに言いたい」「また行きたいな」ととても満足そうに話していました。

（済生記者 宮本亜実）

福岡総合病院

無印良品で初コラボ 住民の健康意識を高める

株式会社良品計画と済生会が締結した地域包括連携協定に基づき、9月30日、当院と距離が近い「無印良品天神ショッパーズ福岡店」で市民向けイベントを開催しました。

コラボ初開催となる今回のテーマは「認知症予防について」。当院の認知症看護認定看護師・保利京子さんが「誰でもできる認知症ケア」と題し、睡眠と脳の関係や、睡眠不足が認知症リスクにつながることを分かりやすく講演しました。

続いて、無印良品のスタッフが快眠グッズを紹介。温浴効果を高め血行を促進する入浴

剤や、精油をブレンドした石鹸について、実際に香りを試しながら効果や効能など快眠のアドバイスを行いました。終了後には参加者へお土産として渡され、「実際に試すことができてよかった」との感想がありました。

（済生記者 富永朋美）



topics

〈福岡〉特養むさし苑 各事業所で趣向を凝らし 笑顔と感謝の敬老会

秋の彩りが深まる中、むさし苑グループの各事業所で敬老会を開催しました。

特養むさし苑では9月後半、11月前半の4日間、各ユニット内で敬老会を実施。田中俊太施設長が全11ユニットを回ってお祝いの言葉を贈り、職員手作りの飾りや余興により笑顔と交流が広がりました。

デイサービスセンター南風と天拝では9月中旬の4日間、厳かな雰囲気でも式典を行いました。田中施設長は長寿を祝い「これからも安心して過ごせる環境を提供していく」と挨拶。賀寿者に記念品を贈呈し、温かい拍手が会場を満ちました。

式典後は、近隣の保育所の園児たちの歌とダンスの映像や作品展示、職員の余興の披露が続ぎ、笑顔と拍手が絶えませんでした。昼食は旬の食材を使った彩り豊かな特別メニューが用意されました。

参加した利用者さんは「心もお腹も満たされた」などと



話し、大変好評でした。

（済生記者 岸川涼二）

山形済生病院 地域の開業医と懇親会

10月29日、ホテルメトロポリタン山形で「なでしこ懇親会」

など総勢44人が参加。「自分の体のことが分かった」「運動をしようと思った」「来年も参加したい」など前向きな意見が多く、健康意識の高まりにつながったと感じます。

これからも多機関と協働し、地域一体となって健康寿命を延ばす取り組みを推進していきます。

（患者総合支援室 MSW 浅山麗子）

〈東京〉向島病院 盲導犬受け入れセミナー

9月27日、日本盲導犬協会の協力のもと「盲導犬ユーザー実地受け入れセミナー」が当院で開催され、職員34人が参加しました。

当日は講師と盲導犬PR犬のタミーちゃんを迎え、盲導犬ユーザー受け入れ対応の基本的なポイントを学習。また、待合や診察室などでの実際の対応を、実演を交えて指導していただきました。

セミナーに参加して感じたことは、盲導犬ユーザーの患者さんが来院した際には積極的にコミュニケーションを取り、「病

大阪北リハビリ テーション病院

自分の体の状態を知り 健康意識高める

10月23日、大阪市北区大淀地区に居住する65歳以上の方を対象に、体力・筋力測定会を実施しました。体組成計を用いた身体測定のほか、転倒リスクチェックのためのバランスや歩行能力のテストを実施。（大阪）中



津病院と当院のセラピストやMSWが中心となって企画し、地域包括支援センターや地域の調剤薬局グループ、特養施設職員の協力を得て行ないました。90代の方や昨年も参加した方

院側がどのように支援したらよいか」「ユーザーが何を要望しているか」などを聞き取ることです。スムーズな対応につながるという点でした。

全国済生会肝臓共同研究 グループ

学会開催期間に合わせて 神戸市で全体会議

今年度の全国済生会肝臓共同研究グループ（SLSG）全体会議を、10月31日に神戸市内のホテルで開催しました。

毎年この時期に同地で開催される日本消化器関連学会週間（JDDW2025）に合わせて開催していますが、開始時間が朝7時半と早朝のため、今回の出席者は8人にとどまりました。しかし、現在進行中の各研究の進捗が報告されると、関連な意見が交わされました。

当研究グループからの今回のJDDWでの発表の報告はありませんでしたが、12月4・5日の肝臓学会西部会では、岡山済生会総合病院・桑木健志医師がシンポジウムで発表する予定です。

SLSGの活動は済生会ホ



参加した職員からも、予定の時間を過ぎるほど積極的に質問がたくさん挙げられ、関心の高さがうかがえました。

（総務課 馬場良子）

ホームページにも掲載。今後も全国に展開する病院グループの強みを生かし、研究を進めていく所存です。



（岡山済生会総合病院 肝臓病センター主任医長 川上万里）

社会課題解決の仕組みでグッドデザイン賞受賞

〈東京〉中央病院

10月15日、当院が地域の企業であるシクミオ株式会社と共同で取り組んでいる「1piece for 2PEACE. プロジェクト」が、2025年度グッドデザイン賞を受賞しました。

このプロジェクトは、障がい者施設で作られた焼菓子企業等での販売会やイベントで販売し、その売上の一部を地域の子ども食堂（フードパントリー）に還元しています。「ワンコインでおつりのくる、一番手前のSDGs.」と銘打ち、一つの焼菓子を購入することで、障が



地域の伝統的な奇祭で子孫繁栄を祈願

〈岡山〉養護老人ホーム玉松園

い者の工賃向上と生活困窮世帯の支援という二つの課題解決に参加できる取り組みです。今回はこの循環型の仕組みが評価され、ソーシャルインクルージョンを実践する「デザイン」として認められました。これからもこの活動が広がっていくように取り組んでいきます。

（事務次長代理 本多拓也）

地域の氏神様として信仰のある七曲神社で、10月19日に秋季例大祭が行なわれました。



とい赤い天狗の面を被った人々が、笏（しやく）を持って悪霊を祓（はら）い清めまわる風習「はなよ」を体験。神社に祀（まつ）られている猿田彦大神が天狗の姿になって現れ、笏（しやく）でお尻をたたき「丈夫な子どもが産まれるように」と子孫繁栄を祈願します。当園も訪問を受け、優しくお尻をたたいてもらいました。

午後は、大小の神輿（みこし）が回ってきた後に、江戸時代から伝承されている獅子舞の演舞が施設前で行なわれました。入所者さんや施設周辺の方々と一緒に鑑賞しましたが、獅子の勇壮かつリズムカルな舞に魅了されました。また、獅子に入所者さんの頭を優しく噛（か）んでいただき、地域の



祭りを堪能することができました。（済生記者 田村嘉章）

〈大阪〉中津病院

世界骨粗鬆症デーにイベントと公開勉強会

10月20日、当院北棟2階エレベーター前で世界骨粗鬆症デーイベントを開催し、17時半からは中講堂で職員向けFLS（骨折リエンサービス）公開勉強会を行いました。

イベントでは整形外科医師と看護師による骨密度測定体験を実施。測定結果を見て医師がアドバイスを行いました。また、骨粗鬆症関連の食品サンプルと



パンフレットの配布、骨粗鬆症に関するポスターを掲示しました。137人が参加し、大盛況のイベントとなりました。

FLS公開勉強会では尾崎泰理学療法士が「骨粗鬆症と運動」をテーマに講演し、32人が参加。病院入口は骨粗鬆症のシンボルカラーである青色でライトアップされ、患者さんも職員も骨粗鬆症について改めて考えるきっかけとなる一日となりました。

（済生記者 鈴木亜希乃）



済生会看護部リクルートサイトオープン！

あなたも「なでしこナース」になりませんか？



<https://www.saiseikai.or.jp/nurse/>

topics

〈島根〉老健高砂ケアセンター 初のフードドライブ！ 職員の善意で充実の寄付

11月17日に島根県松江市にあるフードバンクしまねに食料品を寄付してきました。フードドライブ活動は当施設では初の試みで、10月中旬から職員対象に寄付を募集。うまく集まるのか不安でしたが、段ボール3箱分、68個の食料品が集まりました。内容はインスタント麺やレトルト食品、魚の缶詰、お菓子、ジュースなど常温保存ができる物です。

寄付した際にフードバンクしまねの大木理之事務局長にフー



ドバンクの事情について聞くと、物価高騰、米不足が喫緊の課題と話していました。また、輸送コストがかかるため、当施設のある島根県西部地区はまだ対応できていないとのことでした。今後もフードバンクしまねや地元企業と連携を図りながら、地域貢献を進めていきたいと思っています。

（済生記者 木下 英）

新潟県中央基幹病院 病院キャラクター誕生！

10月29日、開院2年目を迎えた当院の病院キャラクターが決定しました。

多くの職員から寄せられた個性豊かな作品の中から、職員投票（8月25日～9月30日）により最優秀作品が選出されました。見事選ばれたのは、放射線部の伊部貴幸さんが制作した「けん



おうくん」です。このキャラクターは、県央地域で有名な背脂ラーメンを食べすぎてお腹がポッコリしているというユニークな設定で、丸みのあるかわいらしいフォルムが特徴です。優秀作品賞決定に伴い、11月4日に授賞式を実施。現在、けんおうくんは手書きのイラスト状態で、広報課できれいに仕上

福井県済生会病院 病院スタッフの姿勢に誇り

10月23・24日の2日間、福井市内の中学2年生2人が、当院で職場体験を行いました。オリエンテーションで済生会の理念や歴史についてのレクチャーを受けた後、各部署で医療の仕事を経験しました。



写真撮影のため同行した筆者が印象的だったのは「病院のスタッフが、どんなときでも患者さんに優しく接していた」という生徒の感想です。これは当院の理念である「患者さんの立場で考える」を、日々の業務の中

専門職と高校生が連携し 地域の健康づくりを推進

〈三重〉明和病院

10月17日、理学療法士の泉健太郎さんが三重県立明野高等学校で「介護予防に関する運動指導」の出前授業を行いました。当日は福祉科介護福祉コースの2年生20人に向け、専門職の視点で介護予防運動の目的、リスク管理、運動方法（ウォーミ

（済生記者 橋本来林）

ングアップ、ストレッチ、筋力強化、バランス強化など）について実演を交え講義しました。高校生からは「体操は目的や注意点をしっかりと理解した上で行なうことが大事。そのことを意識して高齢者の方たちと一緒に体操をしていきたい」との声が上がりました。

高校生の皆さんは今回学んだことを生かし、今後さまざまな機会を通じて地域の高齢者の健康づくりをサポートしていく計画です。

これからの地域の未来を担う高校生たちの成長を応援していきます。

（介護保険部門課長 姫子松俊弘）

性暴力被害の現状と 支援の在り方を伝える

〈栃木〉宇都宮病院

性暴力被害者サポートセンター「とちエール」では、被害者支援に加え、地域全体での理解促進や防止啓発にも取り組んでいます。今年9月、副センター長の稲見一美地域課長（MSW）が2件の講師活動を行ない、教育現場や支援に携わる人に性暴



力被害の現状と支援の在り方を伝えました。9月11日には「養護教諭2年目研修」で、県内の養護教諭15人を対象に、児童生徒への性被害対応のポイントや信頼関係を損なわないための留意点を講話しました。

翌12日には県主催の「性暴力を考える講座」で、医療・教育・行政・相談支援の関係者約80人を対象に、実際の相談事例を基に被害者が支援につながるまでの課題や支援者の関わり方を解説。参加者からは「実践に基づいた説明で理解しやすかった」などの声が寄せられました。

（地域連携課 川田綾香）



〈長野〉 佐久市特養シルバーランドみつ

心温まる芸術のひとつ

「芸術の秋」の10月、当施設では音楽ボランティアによる演奏会が連日開催されました。10月4日の「佐久響太鼓」の演奏会には利用者さん30人が参加しました。演奏者の真剣な表情、息の合った力強いリズムに心を打たれ、涙を浮かべる人も。「故郷」は手話を交えて演奏され、皆で一緒に手を動かすことで、音と心が通い合う感動の瞬間が生まれました。

10日は地元のコーラスグループ



「ブ「カンターレ」が、懐かしい秋の歌を中心に12曲を披露。利用者さん34人が参加し、「この歌、大好き」「皆で歌うと楽しいね」などと笑顔で話す様子が見られました。

15日はオカリナグループ「スタンドアローン」の演奏会で、利用者さん41人が参加。「川の流れるように」など全12曲が中庭で奏でられ、施設全体が優しい音色に包まれました。

（済生記者 山浦裕子）

山口総合病院 医療サービスの質向上を組織全体で目指す

10月21日、院内医療マネジメント研究会が開催され、職員74



人が参加しました。当日は RRT（院内迅速対応チーム）、情報システム室、抗菌薬適正使用支援チーム、リハビリテーション部、経理課、ベッドコントロールチームの6部署が演題発表。いずれの発表も、経営効率の向上や医療サービスの質向上を目的とした取り組みが紹介され、参加者からは「他部署の工夫を知る良い機会になった」「自部署にも取り入れたい」などの感想が寄せられました。

も本研究会を継続し、より良い医療提供体制の実現に向けた情報共有と連携を深めていきます。（看護師 田山優香子）

済生会超音波研究会

10年ぶりにリニューアルウェブのイメージを一新

11月4日、教育活動の屋台骨であるウェブサイトを10年ぶりにリニューアルしました。

主な変更点として、URLを済生会超音波研究会というこ



とが一目で分かるものにし、セキユリテイ面も向上させました。トップバナーも一新し、グローバルメニューに「eラー



荘内学会で切磋琢磨

〈山形〉 特養ながまち荘

「介護の日」にあたる11月11日に、第2回荘内学会を研修室で開催し、発表者と審査員を含め職員54人が参加しました。

学会の目的は「サービスの質の向上と組織の活性化」です。今年は新たに事前投票の仕組みを導入し、より関心を持ってもらえるように3週間ほど前から、発表予定



〈熊本〉 みすみ病院

患者サービスの向上のためのLINEで受診予約相談

多くの医療機関ではさまざまなSNSが導入されています。当院でもインスタグラムやフェ

の各活動内容を荘内に掲示しました。当日は四つの委員会が発表し、地域貢献や認知症ケア、食への取り組み、職場環境改善など幅広いテーマが取り上げられました。

検討委員会（兼）給食委員会。高齢者の「食べる楽しみ」と健康寿命を支えるために個別化した栄養補助食品を提供し、低栄養状態からの回復や体重増加に効果をもたらした取り組みが高く評価されました。

（特養 作業療法士 井上大生）

イスブックを導入していますが、このたび、最も幅広い年齢層で利用されているLINEの公式アカウントを開設しました。



ターゲットは当院を受診する地域の方で、診療時間中に電話ができない場合でも、トーク機能を使って受診の相談や予約ができる点が最大の強みです。まずは外来診療に関する運用が中心ですが、今後は健康づくりの支援やリクルートなどにも展開できればと考えています。

10月の健康フェスタで広報を開始したばかりで、現在は登録者の拡大に励んでいるところです。運用が軌道に乗るよう、関係部署で協力して取り組んでいきます。

（済生記者 松橋麻紀）

topics



ら秋祭りに移行して今年で3回目です。

当日は晴天に恵まれ、350人ほどが来場。外部からキッチンカーや屋台を3店舗招き、から揚げやたこ焼き、回転焼きなどさまざまな商品が販売されました。当センターは食品パザール、パンやキーホルダーなど授産品の販売を行いました。

ステージでは、済生会しらふじ子ども園の園児や地域の銭太鼓による和太鼓演奏が披露され、西日本ハワイアン協会によるフラダンスや当センター利用

10人が参加。講義では急変の予兆やアセスメントについて学び、事例をもとに患者情報を整理して医師へ報告する演習を行いました。

実技では、窒息時の対応や気管内挿管の介助を模型を用いて体験。高齢患者が多い当院では、身につけなければならない重要なスキルの一つです。

済生会同士で看護技術向上 〈新潟〉三条病院

当院と新潟県中央基幹病院は、医療・看護技術向上を目的として合同で研修を行なっています。

10月7日には救急看護・集中ケア研修を当院で開催しました。

当日は県中央基幹病院の救急部門看護師を講師に迎え、看護師

者のステージ出し物も。たくさんの方の地域の方や利用者さんなどがステージを盛り上げ、活気と笑顔のあふれる秋祭りとなりました。

（秋祭り実行委員長 支援員 東 良平）

10月29日、ショートステイ用居室「あさがお」の内覧を中心とした施設見学会「あさがおひろば」を開催しました。当院では中長期的な入所による養育機能に加え、地域貢献の一環としてショートステイ事業を実施し

（東京）中央病院附属乳児院 ショートステイ事業の 施設内見学・相談会

参加者からは「救急アセスメントに自信が持てた」「学んだことを現場で生かしたい」といった声が寄せられ、有意義な研修となりました。

（済生記者 樋口拓也）



ています。今回は保護者からの要望を受け、見学会を企画しました。

2部制の見学会には延べ7人が参加。参加者は子どもたちが明るく広々とした空間で過ごしていることに安心した様子でした。

当院には保育士、看護師、管理栄養士、臨床心理士、理学療法士が配置され、専門性を生かして養育に取り組んでいます。見学会と並行して行なわれた子育て相談会では、それぞれの職員へ育児や食育、心理・運動発達など多方面の質問が寄せられ、予定時間を超えての交流となりました。（済生記者 今井智也）



〈熊本〉みすみ病院 6年ぶりの健康フェスタ

コロナ禍により休止していた「健康フェスタ」を10月26日に開催しました。

2010年に「地域への恩返し」を目的として始めた当イベントですが、開催は6年ぶりで、運営に携わったことのないスタッフも多くなりました。そのため、経験のあるスタッフを中心に6月から準備を進めてきました。



例年通り子どもから大人まで楽しめるように、ステージイベント、健康づくり講演会、各

種体験ブースを設置。また、クラウドファンディングで導入した電動カーットの試乗体験や医療オンライン診療車（医療Maas）の展示など、新たな

〈栃木〉特養とちの木荘 家族と味わう蕎麦まつり

11月11日、当施設家族会との共催行事として「とちの木荘蕎麦まつり」を開催しました。

当日は、当施設がある富田地区の「蕎麦打ちクラブ」のメンバー6人が来荘。

入居者さん約30人の目の前で蕎麦打ちは迫力満点で、「昔、私も家で蕎麦打ちをしていたんだよ。家族や近所に振る舞って喜ばれていた頃が懐かしい。本当にうれしい」と話す方もいました。

地場産の蕎麦粉を使用した蕎麦は絶品で、お代わりする方も40人ほどのご家族も参加し、親子で楽しく食卓を囲み、多世代での交流を喜ぶ入居者さん



ブースも設けました。

当日は天候にも恵まれ、552人が来場して盛況となりました。

（済生記者 船橋麻紀）

の笑顔が一段と輝く素敵な行事になりました。また、蕎麦は職員にも振る舞われ好評でした。

（済生記者 川上藍美）

感謝を伝える秋祭り 熊本福祉センター

11月8日に「済生会熊本福祉センター秋祭りinうちだまち」を開催しました。夏祭りか

京都済生会病院 乳がんの早期発見と 検診受診を啓発



10月20・24日、2階エレベーターホールで当院初のピンクリボンキャンペーンを開催しました。乳腺外科と魅力・ブランドづくりプロジェクトが中心に、健診センター、放射線科、医療秘書課、株式会社ワコールの協力を得て、乳がんの早期発見の重要性とともに乳がん検診受診を呼びかけました。

ピンクリボンツリーには大切な人の健康を願う約300人がピンクリボン結びをしました。このリボンはワコールの提供で、下着製作の際の端材を再利用したものです。そのほか、乳がんモデルの触診体験、21日にはワコールによる下着の相談・採寸会も行ないました。

また、長岡京市乳がん検診を18・

香ばしさにそそられ 焼きそば完食！

10月30日に食生活委員会主催のイベント「焼きそば屋さん」を開催し、入居者さん12人が参加しました。

このイベントは、普段なかなか外食する機会がない入居者の皆さんに外食の気分を味わってもらうと企画。施設内に設置



した屋台で調理師が皆さんの目の前で焼きそばを調理すると、会場は香ばしい香りで満たされました。焼きそばの香りで食欲がそそられ、普段食事を完食しない入居者さんこの日は焼きそばを見事に完食できました。

参加した入居者さんからは「いい香りがする！」「とってもおいしい！」との声が上ががり、とても喜んでいました。

（済生記者 布施優子）

〈愛媛〉松山乳児保育園 3年ぶり！広い公園で 運動会ごっこ

10月18日、3年ぶりに祇園公園で「いっしょにあそぼう（運動会ごっこ）」を開催し、1・2歳児45人とその保護者80人が参加しました。

子どもたちが描いた絵を旗にして会場に飾ると、色とりどりを



を見たりして楽しみました。初めての運動会で緊張してお父さんの足にしがみつくななど、動けなくなつた子もいましたが、その様子もまた、見ている人たちを和ませてくれました。

久しぶりに広い屋外で開催で

の旗が風に揺れてとてもにぎやかな雰囲気となりました。

今回は、日頃から子どもたちが保育園で親しんでいる歌や踊り、大好きな絵本「おせんべやけたかな」「はらぺこあおむし」の内容も取り入れ、親子で楽しめるプログラムを企画。歌を歌ったり、体を動かしたり、お話



学生たちとの再会で 心温まるひととき

〈大阪〉泉尾特養第二大正園

11月14日、「夢を叶えるプロジェクト」（通称・夢プロ／本誌2025年8月号P36掲載）でお世話になった大阪保健福祉専門学校（大阪）の学生たちとの再会が、利用者さん1人と職員1人で会場を訪れました。

会場では明るい笑顔で迎えてくれた学生の皆さんに、利用者さんもうれしそうな表情を浮かべていました。発表では大きなスクリーンに利用者さんの姿が映し出され、少し恥ずかしそうにしながらもニコニコと楽しそうでした。

終了後、マイクを向けられると「うまく言葉にできないけれど、胸に込み上げるものがありました」と感想を話し、学生たちの一生懸命な姿に心を動かされた様子でした。

〈奈良〉中和病院 安心や笑顔につながる 車椅子寄贈

地域で社会奉仕活動をしている「やまとまほろばロータリークラブ」から車椅子の寄付があり、10月23日に贈呈式を行いました。同クラブの代々の会長と会員の思いをつなぐ「心のバトン」として、毎年続けられているもので、今年は新たに3台寄贈していただきました。11年連続での寄贈で、これまでの総数は49台に達しました。

同クラブの熊本かよ子会長から「車椅子一つは小さなものですが、安心や笑顔につながることで喜



びです」とのお言葉を受け取り、中島祥介院長は「多大なる貢献に感謝します。患者さんや職員からも『使いやすくて丈夫』との声があります。これからも地域中核病院として医療と福祉に頑張つてまいります」と返答。感謝の言葉とともに感謝状と記念品を贈呈しました。

（済生記者 米井 悠）



「北海道」小樽病院 仮装集団が回診!?

10月31日、病棟にぎやかな仮装集団が登場しました。かぶり物や衣装で姿を変えた一団の正体は、当院の緩和ケアチーム患者さんに季節を感じていただき、笑顔を届けようと、ハロウィーンのイベント回診を行ないました。



とんがり帽子姿の明石浩史診療部長、犬のかぶり物をかぶった菊地未紗子緩和ケア内科部長などの面々が病室を訪問。突然の出来事に患者さんは驚きつつも、すぐに柔らかな笑顔になりました。患者さんも仮装して記念撮影し、病室は笑顔にあふれました。



つと緩み、元気を取り戻した様子。スタッフにとっても、お菓子以上に心温まる贈り物を受け取ったひとときとなりました。

（済生記者 定 淳志）

「北海道」なでしこキッズ クラブ

寒さに負けず仮装パレード

10月30日、「北海道」小樽病院内の当施設でハロウィーンイベントが開かれました。子どもたち7人がかわいらしく仮装し



てパレードし、お菓子をもらって大喜びでした。

ミニマウスやクロネコに扮した園児たちは、先生や友だちと手をつないで行進を開始。数日前には平年より早く雪が降り、



当日も肌寒さが残っていましたが、笑顔いっぱい病院の周りを歩きました。

保育所に戻り先生に絵本を読んでもらった後は、せんべい食い競争で大盛り上がり。最後に一人ひとり名前を呼ばれ、「トリック・オア・トリート」と元気な合言葉を言ってお菓子の袋詰めを受け取り、満面の笑みでした。

現在は園外パレードが定着していますが、コロナ以前のよう

に病棟を回って、入院患者さんにもかわいらしい癒やしを届けられる日が来ることを願っています。

（北海道・小樽病院
済生記者 定 淳志）

乳児院ってどんなところ？

地域交流の一步

10月25日、西川口駅西口地区商店会連合会主催のハロウィーンイベントに初参加しました。クラウドファンディングに地域の方々から多くの支援をいただいたことが参加の大きなきっかけです。

係の3人を中心に職員合計15人が交代でイベントに参加。当日はお菓子の配布に加え、施設前に係が手作りのフォトスポットを設置し、手作りのガチャガチャで子どもたちを楽しませました。これにより、乳児院のことを知らない地域の方々にも、少しですがどんな所なのか興味



「茨城」水戸済生会総合病院 素敵な衣装に大変身！

当院職員の子どもたちが通うなでしこ保育園では、10月31日にハロウィーンパーティーを開催し、20人の園児が参加しました。

0歳児クラスは保育士と一緒に作った「はらぺこあおむし」のちようちよに、1歳児クラスは親子で作った「モンスターズインク」のマイクに、2歳児クラスは自分でトッピングをしてアイスクリームに変身！それぞれ素敵な衣装を着て、皆楽しそうにハロウィーンのお話に聞き入っていました。



言葉で、魔女姿の保育士からお菓子をもらい、一緒においしいお菓子をたくさん食べました。皆とてもかわいく、保育士にとっても笑顔がいっぱいあふれる楽しい時間になりました。

（なでしこ保育園 園長
小川律子）

の時期には新しい建物へ引っ越していますが、地域との交流を継続し、より深めていきたいと考えています。

（済生記者 大貫典子）



愛知県青い鳥医療療育センター かわいいデビルがやってきた

届ける魔法のようなイベントです。これからも地域と病院をつなぐ楽しい時間を大切にしていきたいです。

(熊本病院 保育室 室長代行 今吉美沙)

10月30日、当センター内保育園「あおぞら園」での活動を終えたお友だちが、病棟へ帰る途中に療育支援課に立ち寄り、かわいいデビルに変身した仮装姿を見せてくれました。

最初は自分の仮装に怖がるかと心配しましたが、角の生えた頭を鏡に映すと、その姿を見てニコリ。その後も鏡を見るたびにニコニコと笑い、とても気に入ったようです。

職員も「マリオ」に仮装して壁面のハロウィーン飾りをバックと一緒に記念撮影。見慣れないおヒゲと赤い帽子にも驚くこともなく、興味津々で手を伸ばしていました。

通りかかった職員からは「かわいいね」「赤い角が似合って



〈山形〉はやぶさ保育園 ステージで仮装ショー

10月31日、毎年恒例のハロウィーンパーティーを開催しました。

当日はアンパンマンやミッキーマウス、忍者などの衣装を身にまとった子どもたちのファッションショーからスタート。BGMに合わせてステージを歩き、「何の仮装ですか?」というインタビュにも元気いっぱい回答。皆でダンスも踊りました。

会終了後は、5歳児23人が〈山形〉小白川ケアセンターを訪問。おじいちゃん・おばあちゃんとの交流を楽しみました。一方、園ではクモの巣くぐりや的当てなど、ハロウィーンならではの



ミニゲームを行ない、友だちと協力しながら夢中で遊びました。午後には、2〜5歳児のお楽しみおやつとして、アイスが振る舞われました。子どもたちは、

〈熊本〉はあとランド

病院に広がるハロウィーンの魔法

10月31日、熊本病院の院内保

カラスプレーやクッキーなどをトッピングして大満足。笑顔があふれる楽しいハロウィーンとなりました。

(保育士 高取穂乃加)

育園「はあとランド」で毎年恒例のハロウィーンパレードを開催しました。保育士が心を込めて作ったカラフルな衣装を身にまとい、子どもたちは人気キャラクターに変身。

病院内や外来(希望のひろば)を元気に歩きました。

病院職員や保護者の方々からお菓子を袋いっぱいにもらい、子どもたちは大喜び。外来では患者さんやご家族からも「かわいいね」「元気が出たよ」と声をかけられ、手を振り合う温かい交流もありました。

ハロウィーンは子どもたちにとって特別な日であると同時に、病院全体に笑顔と活気を



るね」と声をかけられ、得意げに微笑んでいました。

(済生記者 田口幸子)

〈奈良〉キッズランドひまわり 院長と看護部長からお菓子がいっぱい!

10月30日、中和病院の院内保育所「キッズランドひまわり」でハロウィーンイベントを開催しました。

カボチャやプリンセスの仮装をした12人の子どもたちが、「ハッピーハロウィーン!」と叫びながら、中島祥介院長と高橋久子看護部長の元へ。中島院



どもたちは「ありがとう」と袋を広げ、いっぱいのお菓子を目や輝かせていました。

保育所に帰ると早速「これ!」とお気に入りのお菓子を出して、お菓子パーティーが始まりました。先生からの「給食の前やから一つにしようね!」の声も届かないほど夢中な様子に、周囲も自然と笑顔になりました。

(奈良・中和病院 済生記者 米井 悠)





〈兵庫〉 済生会ハーモニー ハッピー！カッキー？ ハロウィーン！

10月31日にハロウィーンイベントを開催し、利用者2人と職員1人、お仕事体験で来てくれた近隣の中学生3人が参加しました。

今年も待ちわびていたハロウィーン。利用者さんも職員も各々のコスチュームで大変身！中学生たちも一緒に仮装し、高齢者対象のデイサービスをはじめ各部署でお披露目しました。



「トリック・オア・トリート」お菓子くれなきゃいたずらするよー」と元気な中学生らしいパワーで盛り上がりました。

また、今回はゲームのほか、ハロウィーンかぼちゃ作りにも挑戦しました。かぼちゃではな



く、地域でなじみがある柿を使用して個性豊かな表情のハロウィーン柿が完成しました！利用者さんも終始喜んでいて、活気（柿）と楽しさに満ちあふれたイベントとなりました。

（障害福祉課副主任
サービス管理責任者 鳥居信彦）

長野保育園

キョんシーや魔女が 楽しい会を盛り上げる

10月29日にハロウィーン会を行ない、園児84人が参加しました。

子どもたちは自分で作ったバッグやネットレス、帽子で仮装して会に参加し、ハロウィーン気分を存分に味わいました。会



の中で行なった劇では、妖怪のキョんシーに扮した保育者がハ



ロウィーンの歌に合わせダンスし、子どもたちも一緒に飛び跳ねたり動きをまねしたりして、大盛り上がりの楽しい時間となりました。

劇の後は、

作りの魔女のパネルからお菓子をもらおうコーナーへ。泣いてしまいう子もいましたが、勇気を出して「トリック・オア・トリート」と声を出しお菓子をもらうと、とても喜んでいました。子どもたちにとって、心に残る楽しいハロウィーンになったようです。

（済生記者 丸山 葵）

〈茨城〉 神栖済生会病院 院外研修に参加して 災害現場での対応力磨く

JICA主催の国際緊急援助隊医療チーム中級研修に、当

院看護師の佐藤安那さんが参加しました。eラーニングによる事前学習の後、10月12日にJICA横浜センターで実地研修が行なわれました。

佐藤さんが今回の研修への参加を決意したのは、国際緊急援助隊の活動を

理解し、災害医療現場での対応力を磨きたいとの思いから。実地研修では各国の医療体制や文化に応じた医療提供の在り方を学び、日

本の医療が海外では必ずしも標準ではないことを実感したそうです。「国際的な基準を理解し、日本の医療体制を的確に伝えられるよう、引き継ぎ知識と経験を積んでいきたい」と語っ



竣工・引き渡しの前に 山口総合病院

南棟竣工1カ月前の10月中旬、部署検査を約3週間かけて実施し、延べ約120人の職員が参加しました。検査内容は、①壁、床、天井等の仕上り状況の確認、②衛生陶器（洗面器等）



スイッチ・コンセント・医療ガス等の配置の確認、③ペーパーホルダー・PPEホルダーの設置箇所の確認などです。参加した職員は、総合図を片手に出来上がった壁や床を確認し、指摘事項を施工者に報告。施工者からの位置確認の項目についても、イメージを膨らませながら確認していきました。ま

た、図面上では分からなかった是正項目も見つかり、実りのある検査となりました。

（建築準備室 白井啓二）

〈大分〉 日田病院 体験コーナーが好評

10月12日、第29回市民健康福祉まつりがパトリア日田で開催されました。当院は毎年参加しており、今年も多職種のスタッフ15人で参加しました。

当院ブースでは検査部による内視鏡やエコー体験、看護部による健康相談や手洗いチェック体験を用意。また、子ども向けに医師・看護師のコスプレ体験など、医療機関でのお仕事を楽しく体験してもらえ、コーナーを用意しました。



250人ほどが当院のブースに足を運び、「体験コーナーが楽しかった」など好評の声をいただきました。

市民の皆さんに当院の活動を知っていただくために、今後このようなイベントに積極的に参加していきたいと思います。

（医事課 係長 井上美由紀）

topics

10月17日、吹田市立第三中学校で当院の岡田あすか科長が「がん教育」の重要性について講演しました。この講演は、がん教育外部講師派遣事業の一環として行なわれ、中学生73人が参加しました。

テーマは「がん教育 命を考える」が「がん」ってなに？ どう向き合う？ 医療現場から伝えたいこと」で、がんについての基本的な知識や治療、早期



なことを知る機会になった」「図で分かりやすく説明してもらったので吸収できた」と高評価でした。

この教室は今年度計4回の開催を計画。次回は12月17日に実施予定です。医師や管理栄養士に加え、運動の観点から指導を行なう理学療法士も講師に加える予定です。

（済生記者 中嶋亮三）

「がん」ってなに？

〈大阪〉吹田病院



発見の重要性について説明。生徒たちは熱心に話を聞き、がんに対する理解を深めました。

筆者自身もこの講演を通じて、がんの予防に大切な健全な食生活や対策型検診、自己検診の重要性を再認識しました。

（診療情報管理課長／がん診療支援センター 鮫島正俊）

〈富山〉幼保連携型認定こども園でしこ保育園

年長児が鼓隊演奏に挑戦

9月13日、県総合運動公園で「第58回なでしこ保育園運動会」を行ない、園児75人が参加しました。



年長児の鼓隊演奏で運動会がスタート。練習当初の6月は音がバラバラでしたが、練習を重ねるごとに自分のパートを覚え、友だちと息を合わせられるようになりました。8月からは楽器を持ちながらの隊形変化にも挑戦し、演奏しながら移動することにも挑戦する場面もありました。本番は大舞台に緊張感の子どもたちでしたが、音楽が流れると真剣な表情に変わり、堂々と演奏することができました。

年長児は卒園まで約半年となりました。生活発表会や冬の園外活動、雪遊びにお別れ茶会など、まだまだたくさんの行事が

あります。子どもたちがより多くの「できたー」を体験し、自信を持って活動できるようにサポートしていきたいと思っています。

（済生記者 宮本亜実）

伊藤作業療法士が学術大会で大会賞を受賞

東神奈川リハビリテーション病院

当院の作業療法士、伊藤拓人さんが「第10回日本臨床作業療法学会学術大会」で大会

賞を受賞しました。受賞演題は「作業機能障害の評価と種類（CAOD）を用いて、病前生活の振り返りを通じて退院後生活の再構築に繋がった実践」で、患者さんの生活再建に寄与する臨床的知見と実践力が高く評価されたものです。



伊藤さんが常に患者さん一人ひとりに寄り添い、丁寧な対応を心掛けている中で、日々真摯に取り組んできた研究と臨床実践の成果です。地域医療や作業療法のさらなる発展に向けて、私たちの歩みに明るい後押しをしてくれる出来事となりました。

伊藤さんも「今後も研鑽を積み、就労に関する実践報告や研究活動を通じて、

多くの方々への支援につながるよう取り組みたい」と意気込みを語っており、今後の活躍が期待されます。

（済生記者 濱崎啓師）

静岡医療福祉センター 成人部

今年もみんな頑張りましたで賞！

当施設の利用者さんは、県身体障害者福祉会主催の「静岡障害者文化作品展」へ出品することを目標に、日々制作に励んでいます。限られた時間の中で、それぞれが約1年かけて出品作品を作り上げ、11月6～11日の作品展に展示されました。



陶芸の電気釜がある施設は珍しいためか、今年は陶芸部門への参加20作品のうち、11作品が当施設からの出品。そして、二つの作品が特別賞と努力賞に輝きました。

賞を取った利用者さんは「私、特別賞を取ったよ！ お花の模様を付けるの大変だね、頑張ったんだよ。賞が取れてよかった」とうれしそうに話してくれました。

（済生記者 奥川詩織）

〈岩手〉岩泉病院

初めての腎臓病教室

10月29日、当院慢性腎臓病の透析予防診療チーム部会が主催の腎臓病教室を初開催しました。通院患者やその家族、ケアマネジャーなど37人が参加しました。

当日は、富澤優太内科医師が「腎臓の機能や役割、慢性腎臓病の定義」、上館陽香管理栄養士が「食事の基本的な知識と食事療法」を説明。その後、佐々木真澄透析看護師による「日常生活の過ごし方や要因となる高血圧や生活習慣病の予防法」の講話を実施しました。

参加者からは「腎臓の基本的

〈兵庫〉特養ふじの里・小規模特養なでしこ神戸

大迫力の太鼓演奏に熱狂

10月19日にふじの里西館ホールで秋祭りを開催し、入居者さん123人とご家族26人が参加しました。

入居者さんに秋を感じてもらおうと開催している毎年恒例のイベントで、大迫力の吉川錦太鼓の演奏、全員で楽しむ炭坑節やよさこい踊りを実施。さらに今年度は、施設の5S活動の一環でリネン交換のマイスターを決定する決勝戦も行ないました（P32参照）。

普段聴くことのできない太鼓の演奏には皆さん大興奮で、鳴り止まぬ拍手が演奏者に送られました。ある入居者さんは「太鼓の演奏を聴いて思わず涙が出てきました」と大変感激した様子でした。また、リネン交換の実技は、入居者さんやご家族へ職員が日々研鑽した技術を披露するよい機会となり、秋の楽しい時間



となりました。
（なでしこ介護課
ユニットリーダー 高木政幸）

〈愛媛〉小田特養緑風荘
獅子舞に感動の渦

10月19・20日の2日間、地域



の獅子舞保存会の方13人に、施設内と玄関前で伝統の舞を披露いただきました。当荘と、同一敷地内にある老健ふじの園から計54人の利用者さんが参加し、その迫力と情緒に包まれました。「獅子舞のしつぽの動きが大変そうだ」「よく練習したんだね」と緻密な動きに対する敬意と感謝の言葉が次々と飛び交いました。また、「この年になって獅子舞を見られるなんて、本当に幸せだ」という感激の声も多く聞かれ、施設全体が感動の渦に包まれました。さらに「昔、自分も踊っていたんだ」という獅子舞経験者の利用者さんからの



思い出話も飛び出しました。今後も、季節の移り変わりを感ずるさまざまなイベントを開催し、利用者の皆さんに喜んでいただけるよう、全力で取り組んでいきます。

（済生記者 富岡優衣）

大規模イベントで
病院の存在をアピール

11月8日、新潟市内で新潟日報社等主催の大規模イベント



「福祉・介護・健康フェア」NIGATA」が開催されました。当院は「子ども職業体験コーナー」と「出展ブース」にスタッ



フ12人で参加し、約400人が立ち寄りしました。

子ども職業体験では看護師体験を実施。子どもたちはユニホームを着てバイタル測定や妊婦体験、赤ちゃん看護、ギブス着用による車椅子体験などに挑戦しました。どの体験も興味深そうに、そして楽しく取り組みました。

出展ブースでは「健康栄養チエック」と題して、栄養や健診に関するクイズを行ない、最後に管理栄養士や保健師と一緒に正しい知識を確認しました。子どもから高齢者まで幅広い世代と交流し、地域の皆さんとともに歩む病院をPRする貴重な機会となりました。

（総務課 吉川未織）

神奈川県病院

高校生の写真作品を展示

当院1階の東館と西館をつなぐ渡り廊下の展示スペース「まの美術館」で、11月4日から28日まで、神奈川工業高校写真部の皆さんによる写真展示が行なわれました。

展示作業も生徒の皆さん自身で進められ、神奈川県内や東京



〈愛媛〉西条老健いづち苑
祭りの熱狂を楽しむ

西条祭りのフィナーレを飾る飯積神社祭礼の翌日の10月18日、青年団の皆さんの協力により今年も近隣地域の太鼓台が慰問にやってきました。

勇壮な練り歩きを披露する太

夫が凝らしてあり、一枚一枚から撮影者の思いが伝わってきます。若い感性が生み出す多彩な世界が病院の空間にも彩りを添え、写真の魅力があらためて感じられる展示となりました。

（済生記者 小山友輝）

の方々の掛け声には、私たちスタッフも一緒に元気をいただきました。皆さんの健康と充実した一年を願いつつ、来年の祭りを今から楽しみにしています。青年団の皆さん、本当にありがとうございました。

（済生記者 松岡奈保）

topics

〈三重〉 松阪総合病院 救急車に乗ったよ！

10月28日、院内保育園たんぽぽの園児12人と保育士が、保育園前の駐車場で当院の救急車見学を行いました。



救急車のヘッドライトにべちべちと触れてみたり、運転席に座っている人など、いろいろなところに触れてみたり、運転席に座っているお友だちのそばに行こうとタイヤをよじ登ってみたり、救急車の文字をなぞって「これなあに」と聞いてみたり。今年は乗り物好きの男の子たちがたくさん在園していることもあり、キャッキョッとご機嫌に過ごしていました。

園児たちはお散歩カートに乗りながら、または歩きながら駐車場まで来て、救急車を目にしたときにはちよつと違う雰囲気緊張の面持ちでしたが、思い思いに楽しんでいました。

（済生記者 岩崎貴穂）



〈静岡〉 特養小鹿なでしこ苑 数年ぶりの家族会 看取りを語ろう

10月18日にコロナ禍で中止していた家族会を、数年ぶりに開

催しました。今回の家族会のテーマは「看取り」です。

11家族12人と、当苑の増田信施院長・相談員・介護員・看護師・管理栄養士の10人、計22人が参加。はじめに管理栄養士・渡邊浩枝さんから「お食い締め」の話があり、その後はご家族と当苑職員が三つのグループに分かれてフリートークを実施。1時間があつという間に過ぎ、話が盛り上がり時間をオーバーするグループもありました。

普段はなかなか話すことのない「看取り」のこと。決して避けては通れない、そして最も大切なテーマです。だからこそ、いろいろな思いや考えをそれぞれが言葉にして共有することが



健康フェアに1457人 地域との交流を深める

10月11日に済生会健康フェア2025「からだ健学祭」を開催しました。今年は当院の創立90周年の節目にあたり、予防医療センターに加え、外来がん治療センターやリハビリテーション部などの協力で例年より規模を拡大。来場者数は1457人と昨年を大きく上回り、会場は終日にぎわいました。



でき、とても有意義で貴重な時間となりました。

（地域ケア担当 望月亜紀）

熊本病院



館内では健康チェック、食事バランスチェック、内視鏡操作や心肺蘇生体験、薬剤師のお仕事体験など、子どもから大人まで楽しめる体験型企画が盛りだくさん。屋外ではパトカーや救急車の乗車体験、熊本県警察音楽隊の演奏と安全講話も行なわれ、笑顔があふれました。

特設ステージでは、済生会しらふじ子ども園の和太鼓演奏や院内保育園の体操など、多彩なパフォーマンスに温かい拍手が送られました。

（予防医療センター健診事業室
室長代行 山田耕一郎）

〈三重〉 明和病院 介護技術コンテスト出場 学びと気づきの機会に

8月24日に開催された「第10回みえ介護技術コンテスト」に、明和病院なでしこの介護福祉士・水谷拓さんと当院の介護福祉士・穂積智恵さんが出場しました。県内で活躍する介護職員が「介護の仕事」のやりがいを伝え、介護技術を競うことで介護の魅力を発信し、質を向上させることを目的とするイベントで、当日は24人の参加者が「在



宅にむけてのアセスメント」をテーマに、介護現場で日頃培った知識と技術を披露しました。

2人とも入賞とはなりませんでしたが、決勝フィードに残った水谷さんは「悔しい結果となったが、自身と他者の介助の違いを知る良い機会になり、たくさん学びや気づきを得られた。今後の業務に生かし、より良い介護を学んでいくよう努力したい」と熱い思いを語ってくれました。

（介護主任 高倉康次）



てづくりおもちゃ in 〈栃木〉 宇都宮病院



いまい先生のベースに飲まれながら、会場はだんだんと華やかな色に溢れ、時間がたつのも忘れるワークショップとなりました。

(静岡済生会総合病院
事務部長 松永 靖)

いまい先生は「皆さんから、毎月『済生』を楽しみにしていること、子どもたちを喜ばせるため心を込めて作品を作っていることなどを聞くことができました」と話していました。

ワークショップではこれまで「済生」に掲載されたものも含め6作品に挑戦。「折り紙を折るのは30年ぶり……？」といった声も聞えるなか、限られた時間の中で一生懸命に折り紙に取り組むことで参加者同士の距離も縮まったようです。

11月7日、〈栃木〉宇都宮病院において、機関誌「済生」でもお馴染みの折り紙作家・いまいみさ先生の折り紙教室が開催されました。全国済生会事務(部)長会の院内保育研究会のワークショップとして企画されたもので、保育士と事務員合わせて27人が参加しました。

いまい先生の折り紙教室開催！



テーマは「くらしのなかの身近な医療」このまちと、さいせいかい。病院と看護専門学校を開放し、医療をもっと身近に感じ、地域の安心・健康・未来について楽しく学べるさまざまな展示・ゲーム・体験型イベントを企画しました。

ブースでは、子どもたちが実際の診察室で歯科医になりきって専門の器具で口の中を観察。また、DMATカー乗車体験は「かっこいい」と列ができるほど大人気でした。

(済生記者 高畑貴子)



なブースを用意。フラメンコ舞や大抽選会などのイベントも実施し好評でした。

また、有田医療福祉センター・伊藤秀一総長の特別講演「生命(いのち)輝く生活習慣術」、稲田佳紀消化器外科部長の講演「となりの感染症」、山口将則整形外科部長の講演「転ばぬ先の骨折予防」が行われました。

今年は新たな試みとしてキッチンカー出店、餅まきを行なうなど、盛大に開催。来場者からは「毎年楽しみにしている」「講演を聞いて生活習慣を見直したい」などの声がありました。

(済生記者 大向伸正)



topics

岡山済生会総合病院 2年ぶりの済生会フェア

2年ぶり、4回目の済生会フェアを10月4日に開催しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、地元の奉還町商店街の協力による飲食ブースなど57のブースが出展し、2047人が来場しました。

テーマは「くらしのなかの身近な医療」このまちと、さいせいかい。

〈和歌山〉有田病院 地域密着の健康フェスタ 過去最高の来場者数に

第20回済生会有田医療福祉センター健康フェスタを10月5日に当院で開催しました。開場前から大勢の人が列をなし、合計331人と過去最高の来場者数を記録しました。

医師・認定看護師等の相談、健康チェック、内視鏡の模擬体験やアロママッサージなど多彩

topics



拡大。看護部から34人、中央検査科と中央放射線部から2人ずつの計38人が参加しました。研修では、例年通り、住職の法話、20分の座禅2回、写経を行ないました。座禅は静かな環境の中で自分を見つめ、これまでの自分を振り返るよい機会です。8人が合掌



の合図を出し、警策を受けると、いう貴重な体験をしました。写経では、筆ペンで一文字ずつ丁寧に書き、自分の名前や願いを記入。最後に、広い本堂や廊下を感謝の気持ちを込めて清掃し、研修を終えました。研修参加者は職場を一日離れて非日常の時間を過ごし、気持ちをリフレッシュすることができました。

(副看護部長 松田直子)



〔静岡〕川奈臨海学園 地域に見守られ 健やかな成長を願う

11月4日、七五三のお祝いを行いました。7歳の女の子は慣れない化粧に思わず目をぎゅっとつむってしまったり、おしゃべり好きなのに着物を着た途端に静かになったりと微笑ましい場面も。清楚な着物姿で施設内を回ると皆から「かわいいね」と声をかけられ、笑顔があふれました。また、3歳の女の子と男の子もそれぞれドレスとスーツに身を包み、お祝いに参加。小さなフォ



ーマル姿がとても愛らしく、場の雰囲気さらに華やかになってくれました。

その後は地元・川奈の三島神社へお参りに。道中、地域の方々からもお祝いの言葉をいただき、改めて多くの人に見守られながら生活していることを実感しました。

いつかこの温かさに気づき、感謝の気持ちを持てる人に育ってくれたら——そんな願いを込めた、素敵な七五三の一日でした。

〔済生記者 鈴木一太〕

〔福井〕老健ケアホーム・さいせい 皆で歌ってストレス発散

5月21日、当施設入所棟で「大カラオケ大会」を行ない、入所者さん約60人、職員約10人が参加しました。

「何を歌おうかな？」と早速選曲し、本番までに何度も練習していた入所者さんも。一つの空間に大勢が集まり、皆で声を出して歌ったので、ストレス発散にもなったようです。これからもますます元気に過ごしていただけることでしょう！



また、詩吟に携わっていたことがある入所者さんは、皆の前で詩吟を披露。職員も何人かで歌と踊りを発表し、喝采を浴びました(笑)。

カラオケレクは心身の健康につながるというわれています。職員や他の入所者さんとのコミュニケーションの機会にもなり、とても楽しい時間となりました。

〔介護 辻 蘭璃〕

〔山口〕下関総合病院 禅寺でリフレッシュ研修

10月16日、下関市内にある功山寺で「新採用者リフレッシュ研修」を開催しました。看護部で30年以上行なっている研修ですが、今年度は他職種にも枠を

WEB掲載はじまりました！

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿された topics から厳選した記事を発信中！

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>

〈愛媛〉今治病院
健康啓発の効果を実感

10月17日にユニクロ今治店で無料健康相談会を実施しました。今回、済生会職員交流制度で来ていた〈岡山〉吉備病院の方にもスタッフとして手伝っていたいただきました。

当日は57人が来場。貧血・血管年齢・骨密度・体組成計・血圧の五つの検査を受けた後、その結果をもとに健康相談を行ないました。



アンケートの結果、30〜80代という幅広い年齢層の方に来場いただき、継続イベントとして健康への啓発効果を実感しました。

来場者からは「短時間で詳しく体の状態を知ることができた」「いいきっかけになった。また機会があればお願いしたい」などの声がありました。

〈大阪〉野江病院
地域の医療機関と交流

9月27日、第26回大阪市東部地域医療連携学術講演会をホテルニューオータニ大阪で開催し



ました。地域医療を支える医療機関の医師・医療従事者の方々を迎え、当院医師・スタッフを含め合計93人が参加しました。

福田和彦病院長の開会挨拶、野田幸弘副院長の司会進行で始まり、当院呼吸器内科・相原顕作部長、整形外科・柴田弘太郎ロバート部長、泌尿器科・河源特任部長、共催である鶴見区医師会の泌尿器科だんのクリニ

理解が必要と考え、施設との定期カンファレンスの中で今回の研修を提案。当日は、施設職員6人と入所者さん8人の計14人が参加しました。



染症に対する意識も深まったようです。研修後も入所者さんが「こう習ったよね」と職員に確認しながら、手洗いを継続しているとのことでした。

（地域連携福祉事業課

係長 岡松佳史里）

ック・壇野祥三院長が講演。質疑応答では活発な意見交換が行なわれ、有意義な講演会となりました。その後、脳神経外科・垣田寛人部長が診療科紹介を行ない、旭区医師会・村上仁志副会長の挨拶をもって閉会となりました。

閉会後の情報交換会にも多くの人が参加し、交流を深めることができました。

（地域医療連携課 松本雄太）

身体的拘束を体験し
患者さんの気持ちに近づく

〈大阪〉千里病院

10月20〜24日にかけて、身体的拘束最小化チーム主催の身体的拘束体験会が行なわれました。この体験会では実際に拘束具を装着し、拘束された患者さんの気持ちを理解することを目的としています。

医師や看護師をはじめ、コメディカルや事務職員など計107人が参加。初参加の筆者は拘束具を見るの



子どもたちと避難訓練！
長崎病院

10月15日、当院の託児所で避難訓練を実施しました。出火元をキッチンで電子レンジと想定し、長崎市中心消防署消防隊員の立ち会いのもと、保育士5人、支部事務局員2人、乳幼児6人が参加しました。

「火事だ！ 逃げろ！」という保育士の呼びかけに、子どもたちも真剣な表情で取り組み、落ち着いて避難することができました。その後は訓練用の消火器で消火訓練を行い、消防隊員の方から使用方法や操作のコツを教わりました。講師では、初期消火の重要性や消火器の設置場所について助



言をいただきました。訓練後は子どもたちが楽しみにしていた消防車の見学へ。座席に座ったりホースを触ったりと、目を輝かせて興味津々の子どもたちでした。

（済生記者 大川七海）

開催。また、院内の拘束実施率を定期的に報告し、少しでも「0」に近づけられるよう、病院全体で取り組みを進めています。この体験会は今後も定期的な開催（年1回）が検討されています。

（経営企画課 二階堂潤江）

〈神奈川〉横浜金沢若草園
障害者の自立を支える
グループホーム運営

当園では障害のある方の自立支援として、介護サービス包括型のグループホーム「ゆず」を2012年4月より、同「キンモクセイ」を14年12月より運営しています。

現在は2棟ともに男性6人が入居。日中は当園などの就労支援施設を利用、夜間はグループホームで食事・入浴・就寝など、家庭に近い環境の中で過ごしています。

グループホームでは洗濯や部屋の掃除などを、できる限り自身で行なってもらっています。なお、食事準備、服薬管理、朝の送り出し、夜間の見守りなど、日々の暮らしに必要なサポートは支援スタッフが丁寧に行なっています。

保護者の高齢化が進む中、障害のある方が安心して暮らせる「第二の家」が求められています。利用者一人ひとりの生活に寄り添いながら、自立と安心を支える環境づくりに、これからも



長崎福祉センター
地域の絆を深める一日

10月19日、地元・西山台自治会主催の「三世代交流祭」が西山台小学校運動場で開催され、総勢230人が参加しました。

プログラムは小学校プラスバンド部演奏、全員参加のグラウンドゴルフ大会やホールインワン大会、長崎市消防局と地域の消防団の協力による防災訓練や消防車乗車体験など盛りだくさん。当センターも地域住民との触れ合いの一環で、高齢者疑似

体験・車椅子体験・送迎リフト車乗車体験を初めて実施し、参加者に好評でした。

昼食には自治会役員と婦人部の方が、持ち込んだ鉄板で熱々の焼きそばとフランクフルトを全員に振る舞いました。グラウンドゴルフでは参加者が1打ごとに一喜一憂し、職員からも楽しかったという声が多数ありました。翌日は筋肉痛になった職員も多かったようです。

（済生記者 川端 誠・川瀬義博）

〈大阪〉中津病院
中学生230人にがん教育

10月30日、豊崎中学校で「がん教育」を行ないました。がん教育は大阪府が推進するがんの重要な施策として、がん診療拠点病院の指定要件にも盛り込まれています。

当院は今年度4校でがん教育を実施予定で、今回はその1校目。がん診療支援センター長（呼吸器外科部長）の内野和哉医師、同じく副センター長の（乳腺外科顧問）の吉村慶子医師が講師を務め、1〜3年生の生徒約230人に向けて講演しました。

た。長時間でしたが、生徒たちはしっかりと顔を上げ、じっと耳を傾けてくれていました。最後の質問コーナーでは、生徒だけではなく先生方からも手が挙がっていました。がんについて皆が興味を持って参加してくれていたことがうれしく、少し理解を深めてもらえたように感じました。

（がん診療支援センター事務局 植松美保子）

〈山口〉豊浦病院
多職種でカッターレース

10月5日、下関漁港市場前面海域で第11回下関カッターレースが開催され、当院互助会部活



動のTCC（豊浦カッターチーム）が多種職メンバー18人・2チームで参加しました。筆者は今回初参加し、一つの目標に向かって力を合わせる貴重な機会となりました。

初挑戦の部員が多かったこともあり、練習段階から苦戦。しかし、練習を重ねるたびに息が少しずつ合ってきました。本番では船の上で体勢を崩すといったトラブルもありましたが、全員が全力でゴールを目指し、ゴールした瞬間には達成感と笑顔があふれていました。

結果は準決勝敗退でしたが、この経験を通じて、職場でも職種を超えて協力し合うことの大切さを実感。当院のさらなる向上につながる一歩となりました。

（経営管理課 堀田佑馬）

〈佐賀〉唐津病院
制服リニューアル！
機能的で働きやすく

9月から10月にかけて、診療放射線技師、女性事務職員、コンシェルジュの制服が新しくなりました。

診療放射線技師は白のケーシーから紺のスクラブにリニューアル

アル。汚れが目立たず動きやすくなりました。

女性事務職員はこれまで

ブラウスとベストにスカートでしたが、要望の多かったパンツを初めて採用。上着はオールパーラウスとポロシャツの選択制で、一人ひとりの好みに寄り添ったものにしました。

コンシェルジュも以前はスカートでしたが、患者さんときにと話すときにしゃがむことが多いのでチュニック&パンツに一新。色もピンクからシックな黒系に変わり、上品で落ち着いた印象になりました。どの制服も機能的で働きやす



診療放射線技師

コンシェルジュ

女性事務職員

くなったと好評です。これから現場の声を聞きながら快適な職場づくりを進めていきます。

（済生記者 相島蘭香）

topics

緩和ケアの大切さを啓発
熊本病院
9月29日・10月3日の5日間、緩和ケアの普及啓発を目的とした「緩和ケア週間」のイベント



届けることができました。
また、職員によるブースの出店も行ない、普段の活動で利用者さんと楽しんでいる車椅子ボウリングの体験を実施。ベテラン車椅子ユーザーから初めて車椅子に乗る子どもまで、さまざまな方がブースを訪れ、施設のことを知ってもらうよい機会となりました。
(済生記者 竹味由惟)

を開催し、全体で約150人が来場しました。
今年度は新企画として、病院棟2階カフェスペースで日替わりイベントを実施。オリジナルバッグ作成や、アロママッサー体験、アピアランスケア相談会を行いました。特にアロママッサーは大好評で、外来や入院中の患者さんが香りに包まれながら心身をリラックスして



成長喜び運動会
ミヤクミヤクと楽しむ
10月25日、福井県済生会病院の院内保育所ぽっかぽか園の運動会が開催され、園児28人と保護者89人が参加しました。
ひまわり組（2歳児）による踊りのパフォーマンス「ヨイヨイヨイ」で華やかに開幕し、年齢ごとのかけっこや競技が行なわれました。今年は大坂・関西万博が世の中をにぎやかに彩ったことを受けて、当園でも万博公式キャラクター「ミヤクミヤク」をパネルにして設置し競技



いました。
また、外来がん治療センターでは恒例の演奏会を開催。ピアノやフルートの音色に癒やされ、涙を流す方も多く見られました。さらに、病院棟各階には患者さんの絵画や写真を展示し、多くの方が足を止めて鑑賞していました。
体験や展示を通じ、緩和ケアの大切さを知っていただけたことをうれしく思います。
(がん総合支援室 主任 坪田容子)

でも活用したり、入場行進のアーチにも取り入れられたりして、その雰囲気を楽しみました。
各年齢に応じた競技を通して成長を喜び合い、保護者との触れ合いを楽しんでいました。泣いたり笑ったり、どの子も元氣いっぱい運動会でした。
(福井県済生会病院 院内サービス課 中村裕美子)



**健康をもっと身近に！
2病院合同で健康フェア**
広島病院
11月9日、フジグラン安芸を会場に（広島）呉病院と合同で「済生会健康フェア」を開催しました。
「みんなの健康、転ばぬ先の検査」をテーマに、健康チェック、相談コーナー、薬剤師・白衣なりきり体験、体力測定、モルック体験などを行ない、幅広い世代の方々にぎわいました。
当日は肥満症外来チームと内視鏡センターがステージ発表を担当しました。まず、肥満症外来チームがスライドを用いた紙芝居風の寸劇を披露。ユーモラスな演出ながら、食生活や生活習慣などについて分かりやすく伝えました。続いて内視鏡センターは、がんの早期発見の重要性について講演。実際の検査画像を交えた説明に「検査の大切さがよく分かった」との声が寄せられました。
地域の皆さんに健康を身近に感じていただくために、今後も



参加型の健康啓発を続けていきます。
(医療部長 城戸聡一郎)
**岡山済生会外来センター病院
地域と病院が連携し
語り合う場づくり**
10月17日、コロナ禍以来約5年ぶりとなる「在宅療養を支える医療・介護をつなぐ会」を当院管理棟で開催しました。
当日は、岡山県済生会関連施設設の多職種の職員や当院スタッフ合わせて17人が参加しました。当院の水河洋美師長が「外来受診の上手なかかり方や医療相談」について、権代好美師長が「看護外来の取り組み」についてそれぞれ説明。外来受診の

流れや紹介時の注意点など、現場で生じやすい課題を共有することで、今後の情報連携や支援体制の強化につながる有意義な時間となりました。
意見交換では、施設入所者が外来受診をする際の受診結果の共有の仕方などについて施設側から率直な意見も挙がり、病院側の対応を見直すきっかけにもなりました。
(さくら病棟 師長・心得 平松登志枝)
**〔静岡〕障害児入所施設
伊豆医療福祉センター
地元の福祉イベントで
オープニングアクト担当**
10月18日、韮山福祉・保健センターで開催された「市民ふれあい広場」に入所者さん2人が参加しました。
伊豆の国市と社会福祉協議会の主催による地域の福祉イベントで、当施設設の外来・入所利用者さんで構成された太鼓チーム「どんつく」がオープニングアクトを担当。地元のハンディを持った方々によるチーム「やわら太鼓」と合同で、お祭りの始まりにふさわしい力強い演奏を

〈静岡〉特養小庵でしこ苑 消防士も参加して 緊急の防災訓練

11月5日、当苑職員30人が駿河消防署職員6人、地域住民1人の立ち合いの下、総合防災訓練を実施しました。

訓練は2部構成で、1部では地震発生、安否確認、被災状況

確認、災害対策本部立ち上げ、厨房より出火、初期消火、避難誘導というシナリオで行ないました。

2部ではスモークハウスの避難体験の後、するが区看・看ネットの看護師2人からトリアージと応急処置について学び、水消火器による消火訓練、個人防護具の着脱訓練を行ないまし

た。

災害はその種類によって対応が異なりますが、共通するのは、まず自分の命を守る。自分の命を守れないと、他の人を助けることはできない」と消防の方から話がありました。

（済生記者 石田遼祐）



大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。こ報告ください

瀬戸内海の島で感じた

ソーシャルインクルージョン

9月24日、〈神奈川〉横浜市東部



病院、神奈川県病院、横浜右草病院、湘南平塚病院の看護部長4人が、巡回診療船「済生丸」による離島での胃がん・肺がん検診を見学しました。

この見学は、各看護部長が自己研鑽のためにプライベートで訪れたもので、瀬戸大橋をくぐり、穏やかな島々を眺めながら香川県丸亀市の本島へ。

看護部長の皆さんは離島医療の現場に触れ、島民との温かな交流や日々の地道な活動の大切さについて島の保健師から話を聞くことで、すべての人が地域社会で共に生きることを目指す「ソーシャルインクルージョン」の使命を実感したといえます。

全国に広がる済生会のつながり

と、看護部長同士の絆を感じながら、穏やかな瀬戸内海の風景に、医療の温かさや使命を改めて胸に刻む一日となりました。

（香川県済生会病院 済生記者 長尾美甫）

★皆さんの熱意と行動力、とても尊敬します！こうした交流が医療の未来を明るくしますね。

（本部広報課 杉山菜史）



チーム・総勢77人が集結し、開会式前から白熱した練習が行なわれ体育館はすごい熱気に！ 家族や友人も応援に駆け付け、多くの人でにぎわう中、Tシャツから靴下までそろえたユニホームで登場した「OJJD ROOKIES」が気合も技術も勝り

初回大会の優勝を飾りました。

リベンジを誓うチームや「来年まで待てない」との声もあり、「半年後くらいにまた開催します」と眞砂医師。次の大会に向けて、ますます盛り上がっています。

（鳥取・境港総合病院 済生記者 亀尾美子）

★77人も集まった激闘をのぞいてみたかった！ これは定期戦になりそうな予感。企画も大変そう（汗）。

（メディカル・リーフ 吉村亜矢）



第77回日本皮膚科学会西部支部学術大会で「ベストドレッサー賞」を受賞しました。

本学会では、開催地である岡山・倉敷市児島が「ジーンズの聖地」であることにちなみ、ドレスコードを「デニム」に設定。登壇者もスタッフも含め、すべての参加者にデニムスタイルでの来場が呼びかけられました。

その特別企画として立ち上げられた「ベストドレッサー賞」。抜群のファッションセンスと個性あふれるスタイルで会場を華やかにしてくれたとのことで、中川部長が見事、選ばれました。

（大阪・富田林病院 総務課課長補佐 小谷知広）

ベストドレッサー賞受賞！

〈大阪〉富田林病院の皮膚科・中川浩一郎部長が、10月18・19日に岡山コンベンションセンターで開催された

★全身デニムは相当なおしゃれな級者……。トピックスにもお写真（P34）が載っているのを要チェック！

（メディカル・リーフ 岩谷純一）

ボランティア活動で万博へ！

10月8日、大阪・関西万博で開催された「障害者文化芸術国際フェスティバル」に会場ボランティアとして参加しました。

全国手をつなぐ育成会連合会が主催するイベントで、全国から障害者の支援団体が集い、さまざまなパフォーマンスや体験型プロジェクト



を10月8～11日の4日間実施。8日は鳥根県・桑の木音楽会による石見神楽のステージを、たくさんの来場者が楽しめました。「見応え満点」と絶賛の声が聞かれ、見る人・演じる人、働く人全員が感動しました。

万博は連日混雑が激しく、〈大阪〉障害者支援施設ふくろうの杜の入所者さんたちは行けませんでした。が、ささやかなお土産（ミヤクミヤクのクッキー）を持ち帰り、土産話とともに楽しんでいただきました。

（大阪・障害者支援施設ふくろうの杜 施設長 町原誠治）

★入所者さんたちも、町原施設長の

お土産話で万博気分を満喫できてよかった！

（本部広報課 大嶋 薫）

地域の名士と共に文化賞受賞

このたび、私は「東海テレビ文化賞」を受賞しました。この賞は愛知県、岐阜県、三重県において多年にわたり社会、文化、学術、スポーツ、産業などの各分野で功績のあった人や団体に贈られるもので、過去には将棋の藤井聡太さんなども受賞して



います。

第57回の今回は、コーチとして数多くのフィギュアスケート選手を育てた山田満知子さんや、中日ドラゴンズの応援番組に出演し、球団外広

報としても活動するタレントの峰竜太さんら5人が受賞。

受賞者は10月9日のニュース内で発表され、11月4日には10月31日の顕彰式の様子やそれぞれの活動を追ったドキュメンタリー番組が放送されました。私の「国境なき医師団」での活動や、「三重」松阪総合病院における救急医療の現場についても詳しく紹介されました。

(三重・松阪総合病院

救急科 医長 久留宮 隆)

★済生会でそして海外でも人々の命を守る尊い活動に心から敬意を表します。

(本部広報課長 河内淳史)

大迫力の作品完成!!

今年4月から、利用者さん6人と職員で貼り絵の作品作りに取り組みました。

モチーフは「サザエさん一家」。細かい色まで忠実に再現することにこだわりました。色とりどりの折り紙を細かく切りそろえ、一枚一枚丁寧に貼り合わせながら、時間をかけて制作を進めました。

とても細かい作業で苦戦しましたが、9月20日、ついに完成! 食堂に展示することができました。出来上がった作品は壁一面を覆うほどの大きなサイズです。利用者さんは



「やっとなってきた」「すごい」と声を上げ、大喜びしていました。

今後もうこうした取り組みを通じて、日々の楽しみや作品を作り上げる達成感が味わえるような活動の場を増やしていきたいと考えています。

(福井・老健ケアホーム・さいせい

済生記者 谷口知恵子)

★再現度がすごい! 細部まで丁寧でまるで本物のサザエさん一家がいるみたい。

(本部広報課 杉山菜央)

皆で作って楽しむ芋煮会

10月19日、「山形」特養愛日荘では3階北あやめ・さつきユニットトリビ

でも良い芋煮会になりました。感染症対策などでユニット活動が実施できないこともありましたが、芋煮会を今回実施できて入居者さんの普段は見られない一面を、職員一同知ることができました。

(山形・特養愛日荘 介護職員 吉田倫太郎)

★入居者さんとの芋煮会、皆さんの手さばきや笑顔が目に浮かぶようです。芋煮もとってもおいしそう!

(メデイカル・リーフ 紫村柊斗)

お花で笑顔を咲かせましょう!

10月24日、総合玄関前の花壇の植え替えを行いました。植え替えを



したのは、「福岡」大牟田病院のお花好きが集結した「済生会大牟田病院園芸部」!

「患者さん・職員の皆さんの心に花を咲かせましょう」をモットーに、春と秋の年2回程度、花壇の植え替えや院内の清掃活動を行なっています。今回はビオラやパンジー、カラナデシコなど、秋から冬まで花を咲かせる品種を植えました。

歩行訓練中の患者さんや外来患者さんから「きれいですね」、職員の皆さんから「植え替え楽しみにしています」など、うれしいお言葉をいただくこともあります。これからも皆さんの心の癒やしとなるよう、楽しんで活動していきたいと思っています。

(福岡・大牟田病院 薬剤部長

松尾信吾)

★私も疲れたときはなるべく外を眺めたり少し散歩したりして、自然から元気をもらっています。

(メデイカル・リーフ 坂本陽子)

地元コミュニティFMに出演!

10月12日、「神奈川」横浜若草病院のリハビリロード整備のクラウドファンディング(CF)紹介のため「金沢シーサイドFM」に出演しました。出演のきっかけは、若菜直子・前金沢区三師会長からのお誘い(横浜・市金沢区では医師会・歯科医師会・

「ソーシャルインクルージョンの根付いた社会の実現を目指す」という使命を具現化するために生まれた済生会の公式キャラクター「さいせい」です!

詳細は二次元コードから見てみてね



ングで芋煮会を開催し、入居者さん20人が参加しました。

開催した芋煮会では、3人の入居者さんに具材の切り分け、味付けなどを手伝ってもらいました。親しみ



ある芋煮を作りながら、入居者さんは「久々に作るな」と言いながらも、さすがの手さばきで1時間程度で完成。そして昼食時に皆さんに提供しました。

芋煮を楽しんだ入居者さんからは「おいしい」との感想をいただき、と

記者魂 さいせいです!

1

済生記者の皆さんへ
さいせいのお願い♪



【今回は写真の大きさについて】
これは良い写真だ。大きく載せたい!! と思っても...

2

サイズが(解像度や大きさが)

小さいと、大きく載せることが
できないんだあ
あああ!!



さいせい、
悲しい...

3

JPG (JPEG) 形式
なら、写真1枚につき

1MB以上がオススメ
だよ

良い写真、待ってるよ

マスコット・キャラクターとして皆さんに愛されている「さいせい」は、2年目のフレッシュな済生記者としても絶賛活躍中

次号予告

済生 No.1159
[令和8年1月号]

済生会の不易流行論 (208) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 上白石萌歌

口福にっぽん (100)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

三井住友銀行

——表紙見返し[表紙2]



なでしこ
ファーム



熊本、松山から「愛」をお届けします!

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町 3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町 143 番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。
熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが出品し、済生会のホームページ上で営業中です。
商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追いつきと、一生懸命つくりました。
どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー (左上から時計回りにプレーン、マール、レーズン、紅茶)
♥ギフトボックス (クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)
♣くまドレーズ (くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ)
♠元祖クッキー (片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>



ホームページには、他にも魅力がいっぱいの商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。



60万本のコスモスに囲まれ
笑顔も色づくひととき

〔福井〕特養聖和園わらびようデイサービスセンターでは、10月15・17・19日の3日間、利用者さん延べ18人と職員が勝山市野向のコスモス畑へドライブに出かけました。
秋晴れの空の下、60万本のコス

送終了後、ご寄付が増えています。
た！
〔神奈川・横浜若草病院〕
済生記者 長澤伸哉
★さすが長澤さん！熱意あるトークが地元リスナーに響き、効果抜群です。ね……。
〔本部広報課 大嶋 薫〕

モスが風に揺れ、一面に広がる景色はまるで絵画のよう。車窓から眺めるだけでなく、花々に囲まれた時間は皆の心をほどこき、自然に笑顔がこぼれました。
「きれいなね」「昔は畑に咲いていたよ」と会話も弾み、思い出話を花を添える方も。移りゆく季節を五感で感じることは、認知機能の維持にもつながります。秋の澄んだ空気を胸いっぱい吸い込み、心も体も温まる時間となりました。
〔福井・特養聖和園 済生記者 野尻 宗〕
★素敵な笑顔！肌に触れる風やざわめく音、五感とともに楽しむと思えばよりいっそう深まりますね。
〔大空出版 大類百世〕



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施療救療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日、財団法人済生会を創立した。

以来今日まで114年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施療救療」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団法人済生会となっている。

済生

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年12月10日発行
通巻第1158号 (第101巻第12号)

編集兼 炭谷 茂
発行人
発行所 社会福祉法人財団法人済生会
〒108-0073
東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311 (代)
FAX: 03-3454-5576
印刷所 株式会社白橋
東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人財団法人済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 3
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 116
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 67
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 404 (数字は令和6年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の57島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万7000人。

団体扱自動車保険のご案内

取扱い保険会社に

\\ **三井住友海上火災** が加わりました! //

職場に入れば 選べて、おトク。

団体扱契約は
一般契約に比べて

約**5%割安**※

本制度は職員の皆さまで、
支えていただく制度です。
たくさんの方が加入することにより
割引率が拡大します。
是非、ご加入を検討ください

お見積り依頼・制度の詳細は済生会団体扱自動車保険パンフレットから
パンフレットの連絡票・保険証券(写)・車検証の3点をご用意ください▶



取扱い保険会社

● 損保ジャパン

● 東京海上日動火災

● あいおいニッセイ同和損保

● 三井住友海上火災

※団体扱分割払いは一般契約と異なり分割割増がかかりませんので、約5%割安となります。団体扱年一括払いは一般契約年一括払に比べて、5%割安となります。

●このポスターは団体扱自動車保険の概要を説明したものです。

●詳細につきましては取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

●団体扱自動車保険にご加入いただけるのは、ご契約者および被保険者が引受保険会社の定める条件を満たす場合のみとなります。